

桜の中のお富士さん……音羽から本郷へ

- ★――音羽富士・護国寺境内――
- ◆……音羽通り・茗荷谷縛られ地蔵・播磨坂・植物園
- ★――白山富士・白山神社のお富士さん・八百屋お七地蔵
- ★――食行身祿の墓・これも富士塚――
- ◆……本郷通・土物店・目赤不動・吉祥寺
- ★――駒込富士・富士神社――
- おまけ……六義園・染井墓地 桜見物

時は4月、満開のサクラの下での富士山巡り。途中八百屋お七のお地蔵さんに参って、本郷あたりへ。諸処でライトアップされているサクラもあってほんに今日は「夜桜お七」だ。



大人のための科学塾『みわ塾』

HP: <http://kazmiwa.sakura.ne.jp>

東京の富士をめぐる小さな旅 おふじさん巡り

■江戸の昔、目黒のサンマと並んで有名なのが目黒の富士だった。歌川広重の「江戸百景」には2枚の目黒富士が描かれている。右の絵はそのうちの一枚で、「目黒新富士」である。遠くの富士山を見晴らす位置に作られた人造のミニ富士だが、ちゃんと登山道もあり頂上に登れるようになっている。

■目黒新富士は別名近藤富士とよばれ、樺太探検で有名な近藤重蔵の別邸に文政2年（1819）年に築かれた。この新富士とは別に目黒には元富士もあった。広重の絵は「元不二」とある。こちらは1812年に伊右衛門という富士講の先達が願主となって造ったものと言われ、10mほどの高さがあったという。

■富士山に登って修行することは役行者の時代（700年頃）から行われていた。聖徳太子も登ったと言われる（？）ように、修験者たちの霊

峰への関心は高かった。江戸の時代になると修験者たちが一般の人たちを先導して富士登山を行うようになった。その人たちを先達とよんだ。先達の中には「登山100回」などという人たちもいた。当時の状況を考えれば、とんでもない回数だ。そうなる则ほとんど神様使いになる。日本では昔から山岳修行を成し遂げた人を崇拝する精神風土がある。仏教界でも、千日回峰行というとんでもなく危険な行く人もあり、成し遂げた人は大阿闍梨として尊敬を集めている。近年世界遺産になった熊野でも奥駈けと称して奥深い熊野の峰峰を歩く修行が今でもなされており、登山者にも人気を集めている。高い山には霊力があり、そこへ何回も登ると霊験をうけると考えられており、人々はその霊験にあやかりたくて高山に登った。

■先達さんたちは「講」を作って、富士登山の先導案内をする一方、実際の富士山に行くことができない人たちに、その気分を味あわせるために江戸の町に人造のミニ富士を作った。江戸には八百八講があったという。それぞれがミニ富士、富士塚を作った。一般の庶民は富士塚を「お富士さん」と親しみをこめてよんだという。6月朔日は富士の山開きだが、それにあわせてお富士さんでも山開きが行われ、縁日が開かれた。今ではごく一部のお富士さんでしか縁日はないが、それでもいくつかの講は続いている。

■私は、今でも盛大な縁日が開かれている十条富士のすぐそばに住んでいたこともあり、昔からお富士さんに関心は高かった。これまで東京中に残る富士塚を探して、ほとんど回ってみた。今回は東京のお富士さんの先達になって、みなさんをご案内しようと思っている。



■護国寺の中の富士さん

護国寺は「生類哀れみの令」の徳川五代将軍綱吉の母、桂昌院の発願によって作られた真言宗豊山派の大本山だ。ちなみに総本山は奈良の長谷寺。将軍さまはお母様に会うために16回も護国寺に参詣した。お供は千人を越える行列で「御成道（おなりみち）」、今の音羽通りを進んだ。もともとは神田川につながる小さな川が流れていたが、それを埋めて800mもの真っ直ぐな道を造らせた。護国寺の上から見ると、お成り道の先に江戸城が見えたそうだ。ちょっと試してみよう。

将軍が護国寺に何回も来たのは親孝行のためだったと言われている。綱吉はこの付近に音羽という奥女中を住まわせていた。音羽の名前はこの奥女中の名をとったものだから、有名人だったのだろう。将軍さまが足繁く護国寺を訪問したのは本当は彼女に会うために来ていたのではないか。などと多少の勘ぐりをするところが、歴史の楽しみだ。



■桂昌院

もともとは京都紫野の八百屋のむすめでお玉といった。それがひよんなことから家光の側室の侍女として江戸へ行った。すばらしい美貌は春日局に認められ、家光の側室になり男の子を産んだ。家光の死後は桂昌院という尼さんになった。しかし四代将軍家綱は子を残さないままなくなった。その跡を桂昌院の子、綱吉が継ぐことになり、桂昌院は大奥を支配する権力を得た。「生類哀れみの令」は綱吉に子が授かるようにと桂昌院が発案した。正室をさしおいてそんなことをしてはいけない。嫁姑の争い、桂昌院の願いもむなしく、綱吉に世継ぎはできなかった。

朝廷は桂昌院に従一位の位を贈った。その勅使を迎える接待役が江戸城で不祥事を起し、即日切腹させられた。その接待役は浅野内匠頭、松の廊下の事件である。桂昌院の知らぬところではあるが、歴史はいろんなところでつながっている。桂昌院は自分の護国寺ではなく芝増上寺に葬られている。ついでながら玉の輿という言葉があるが、これは八百屋の娘、お玉が将軍さまの母になるほどの出世をしたことにちなむという説がある。

■音羽富士

それはともかく、護国寺の仁王門をくぐると大きな石段が目の前に現れる。その石段を登らず右手を見ると鳥居がある。お寺に鳥居とはおかしなことと目くじらを立てることはない。台地の末端の傾斜に富士の熔岩を積んで築かれた富士塚で、登山道もきちんと作られている。この富士塚には地元の山護講のほか数多くの富士講の石碑が建てられている。頂上の祠には「富士浅間神社」の新しい石碑がある。塚の右側には、富士の洞くつを模した洞窟がある。木花咲耶姫命の碑が収められている。登山道には小御嶽石尊大権現・大天狗・小天狗の碑があるが、これも富士山の小御岳を模している。

これだけ立派なお富士さんは他にはあまりないが、文化財には指定されていないので、だれでも登ることができる。江戸時代、今の豊山高校付近に作られたものを明治になって今の場所に移築したので、文化的価値は少ないとのことなのか？

■豊島岡墓地

護国寺の本堂は池袋に続く台地の上にあるが、下から見ると山のように見えたので、権現山などといわれた。もともと護国寺は墓地を持っていなかったのだが、明治の元勲が墓をつくりはじめた。さらに皇室は敷地の半分以上を召し上げて皇族の墓地にした。もとは豊島岡墓陵と言ったが、「陵」は天皇皇后の墓だけなので今は豊島岡墓地という。一般人は入ることはできない。仁王門の並びに開かずの御門がある。皇族の葬儀の時にのみ開かれる。皇籍を離脱した清子さんはこの墓に入ることはできないらしい。

白山富士 全山あじさいのお富士さん 白山神社境内

■縛り地蔵・富士坂

ちょっと寄り道して拓殖大学前の林泉寺の「縛られ地蔵」をみる。八代将軍吉宗の頃、奉行の大岡越前さまは「反物を盗んだ犯人はこの地蔵だ！」という裁きをした。実はそれは囮作戦で、本物の犯人が一網打尽にされるという「巷談大岡裁き」のお話だ。先日葛飾区を歩いていたら、南蔵院というお寺に「縛られ地蔵」があった。そちらは縛るための荒縄を1本100円で売っていた。茗荷谷林泉寺の地蔵は前回行ったときにはビニールヒモで縛られていたが、今回見たら5円玉をぶら下げた荒縄で縛ってあった。願いが叶うと縄を解くのだそうだ。

林泉寺から地下鉄のガードをくぐって（地下鉄の下をどうやってくるの？）春日通にでる手前に、車がひっくり返りそうな急坂がある。これを富士坂という。坂下にあるお寺の藤がきれいで、3代将軍家光が「藤寺」とするようにと言ったので、この坂は藤坂と名付けられたというが、もともとは富士さんが見えたので富士坂だったとも言う。坂の途中からはいい水が涌いたそうだ。

■小石川植物園

東大の付属植物園だが、5代将軍徳川綱吉の「白山御殿」の跡地に幕府が作った「菓

園」がこの植物園の前身。将軍さまは
いったいくつ御殿を持っていたんだ
ろうか。名君といわれた八代将軍は目
安箱というものをもうけて庶民の意見
を聞いた。それで実現したのが貧民の
ための医療施設、小石川養生所だった。
いまは植物園の中の井戸が残るの
み。……山本周五郎の小説赤ひげ診療
譚の舞台となったところ。

植物園の脇の坂をのぼると東洋大学
の法科大学院。もとの書記官研修所。
下る坂は蓮華寺坂で、坂下が白山下交差点である。



■白山神社

地下鉄の出口から大きな鳥居をくぐり、白山神社の拝殿脇から裏手に出ると下の写真のような鳥居が見える。この背後が富士塚であるが、門が閉められて登ることはできない。ふつうの富士塚のように熔岩がゴツゴツしている様子は見えないが鳥居に浅間神社とあるからお富士さんと分かる。富士講の石碑はこの塚にはないが、裏手の金網の脇に2基、捨てられたように並んでいる。

この富士塚がふつうの「お富士さん」にみえないのは全山があじさいで覆われているからだろう。あじさい時には開放され、登山可能。富士さんは熔岩がむき出しになった荒々しさが必要だ。でもまあ気にしない。

この富士塚は台地の上にあるようだが、それでも参道から見ると台地の上に堂々と立っているように見える。あまりにもきれいな円形の姿から、円墳を利用したのではないかとの推測もある。私もそう思っているのだが、証拠は見つかっていない。

■八百屋お七の墓

白山下から本郷台にのぼる坂の途中に「八百屋お七」地蔵がある。八百屋お七の話は、天和2年(1682)の大火事の際、お寺に避難したがそこで出会った吉三に一目惚れしたお七は、家に戻った後に再び吉三にあいたくて、放火する。火事になればまた吉三に会えると思ったからだ。天和の大火では芭蕉庵が焼けて居場所のなくなった芭蕉は「野ざらし紀行」の旅に出、以後漂泊やまず。これも五代将軍綱吉の時代の話だ。お七は16歳になったばかり、15歳以下は死刑にならない決まりだった。お奉行さまは「15歳だね」と言ってくれたが、16歳だと言いつつ張ったので、鈴が森刑場で火あぶりになった。お七の生まれた年は丙午の年(実際には戊申生)、この年生まれの子は縁起が悪いといわれるので、縁談に差し支えたという迷信ができた。いまでもそれが生きており、1966年生まれの子は極端に少ない。実際には大学受験、就職などでは得したのだが。秋篠宮の奥様は丙午生まれ。

身禄の墓 これも富士塚、本郷海蔵寺

■海蔵寺

天和の大火の火元の大円寺には「ほうろく地蔵」がある。これもお七さんに関係ある地蔵さま。火元だったので大円寺の敷地は縮小された。向丘高校の脇をとおり、本郷通を渡って進むと海蔵寺がある。ここは曹洞宗大智山海蔵寺といい、禅宗のお寺である。ここには相撲人の墓がいくつもあることでも知られている。

■身禄行者の墓

私はこの寺には何回か来たことがあるのだが、ここに「富士講」中興の祖である身禄行者（寛文11年(1671)～享保18年(1733)）の墓があるということは知らなかった。129回も登山した長谷川角行によってはじめられた富士山信仰は、身禄の頃には退廃的になっていた。彼はそれを嘆き、庶民の苦しみを救おうと、富士山七合五勺の烏帽子岩近くの石室で断食入定した。その間に弟子たちに伝えられた身禄の教えは、広く江戸庶民の信仰をあつめた。1707年宝永4年富士山は大爆発した。これも五代将軍綱吉の時代。身禄の入定はその25年後である。墓碑は、熔岩でつくられた富士塚の山上にある。



■辻のヤッチャ場

海蔵寺から本郷通に出て白山上の交差点近くにくる。ここには「辻のヤッチャ場」の跡がある。ヤッチャ場は幕府の御用市場。江戸三大青物市場のひとつ。土のついたままの野菜である「土物」が取引きされたことから「駒込土物店（だな）」といわれた。辻は土がなまったもので、交差点の意ではない。1929年に「駒込青果市場」と改称し、1937年に豊島区へ移転した。

■目赤不動

ヤッチャ場の先で本郷通から「動坂」が別れる。これはもともとは不動坂だったが、それが「動坂」になった。坂の途中に駒込病院がある。不動は目赤不動のことで、江戸五色不動の一つである。ちなみに他は目黒、目白、目青（三軒茶屋）、目黄（三ノ輪）である。もともとは赤目四十八瀧で修行した満行がここに小さな堂をたてたが、鷹狩りの途中で立ち寄った3代将軍家光が目赤にするように命じたという。目赤不動になってから庶民信仰を受けるようになったという。



駒込富士 もとは東大校内にあった

■吉祥寺

中央線にある吉祥寺は、明暦の大火（四代将軍の時）によって江戸の町が焼けた後、吉祥寺の門前に住んでいた浪人、農民を移住させた場所である。吉祥寺に吉祥寺という寺はない。吉祥寺はもとは水道橋付近にあったが現在地に移転した。曹洞宗の禅寺で幕府からも優遇された寺であった。修行僧も多く、教育システムは優れており、それがのちに駒沢大学となった。梅檀林（せんだんりん）という教育所が駒沢大学の前身ということになる。



■上富士

本郷通を駒込の方向に行くと上富士交差点に出る。西には綱吉の寵愛を受けた大老柳沢吉保の隠居場所の六義園がある。上富士の町名はないが、これは駒込富士の上にある富士神社に由来する。この神社はもとは本郷にあった。それが移転してこちらに移った。もとの場所を本富士、今は本富士警察署にその名を残している。上富士の警察は駒込署という名前である。

■駒込富士・富士神社

富士神社は本郷三丁目交差点の本富士警察署の場所にあったが、加賀藩の上屋敷を造るために移転させられ現在の場所に来た。寛永六年(1629)3代将軍家光の時代のことである。この神社の社殿は富士塚の上に鎮座しており、他の神社、寺の境内にある富士塚とは規模が違っている。これと同じように塚の上に社殿があるのは多摩川浅間神社、篠崎の浅間神社ぐらいなものである。祭神はニニギの命の奥さんで山幸彦のお母さんである木花咲耶姫である。山幸彦の奥さんは海神の娘で実際はワニだった。彼女が産んだウガヤフキアエズが神武天皇のお父さん。エエーッ、初代天皇はワニの孫だったの？



■富士講の碑・むぎわら蛇

石段の両側には富士講の碑がたくさんある。この神社は氏子を持たず、富士講の人々によって維持されてきた。旧暦の六月朔日は山開きで現在は月遅れの7月一日に山開きが行われる。その日は多くの屋台が出て賑わっている。

山開きにあわせて、縁起物の「むぎわら蛇」が売られている。この蛇を置いた家は、疫病がはやってもうつらないということで人気が出た。いまでも、厄除け、虫除け、病除けに効果があると信じられている。1個千円（2006年度）。

■六義園

この庭園内にも富士さんみたいなものがあるのだが、まだ未調査。いまはしだれ桜がきれいですから見ていきましょうか。さらにその先にはソメイヨシノの発祥地、染井墓地があります。

■次回の案内

■第2回（5月11日・金曜日）

深川あたりのお富士さん 中央区・江東区あたり

●地下鉄有楽町線「新富町」改札口 10:00 集合

昼食は日本五大銘飯（？）・深川めし（2000円ぐらいします）

●コース 佃大橋から鉄砲洲稻荷「鉄砲洲富士」――→亀高橋から高尾稻荷――→お岩神社――→隅田川永代橋――→佐賀町――→深川不動・永代寺・富岡八幡「富岡富士」――→清澄庭園「清澄富士」――→深川めし・霊巖寺・六地藏――→時間があれば芭蕉稻荷。なければ大江戸線「清澄白河」駅で解散

■第3回（6月30日・土曜日）

いよいよ山開き 練馬・板橋・北区あたり

●西武池袋線「江古田」北口前 浅間神社境内 10:00 集合

●コース 「江古田富士」登山――（電車）――→池袋・氷川神社「池袋富士」登山――（電車）――→十条・縁日「十条富士」――（電車）――→田端「田端富士」・赤紙仁王――（JR電車）――→小野照崎神社「下谷坂本富士」――→鬼子母神で解散

■ 今は7月1日が富士山の山開き。それに合わせミニ富士山も山開き。十条富士の縁日が最も賑わう。それにあわせ見物に行きます。きます。江古田、池袋はふだんは閉鎖されており、この日しか登れません。貴重な1日です。

深川あたりのお富士さん

今回は下町、鬼平犯科帳の舞台にあるおふじさんを回ってみましょう。門前仲町あたりに今はいいお富士山はないのですが、昔の富岡八幡の富士山は立派だったようです。そんな事を思い浮かべ、深川めしでも食べながら歩いてみましょう。それだけではちょっと物足りないので、昔はなかった清砂大橋を渡って葛西付近の富士山にも行ってみましょう。

- ★――鉄砲洲富士・鉄砲洲稻荷神社――有楽町線新富町
- ◆……お岩稲荷・永代橋・豊海橋・高尾稲荷・
- ◆……門前仲町・深川不動尊
- ★――富岡富士・富岡八幡宮
- ◆……清澄庭園・六地藏（霊巖寺）……（深川めし）
- ★――砂町富士・富賀岡八幡宮（元八幡）――東西線南砂町
- ★――雷富士・真蔵院――東西線葛西
- ★――中割富士・天祖神社――東西線葛西



大人のための科学塾『みわ塾』

HP: <http://kazmiwa.sakura.ne.jp>

■新富町

地下鉄有楽町線の新富町駅上には中央区の区役所がある。この付近は昔、大富町と言った。明治元年に新島原の遊郭ができたが、しばらくして廃止された。その後「新」島原と大「富」町を合わせて新富町になった。明治5年(1872)この地に「新富座」が開館し、大いに活況を呈し、明治22年歌舞伎座ができるまでは演劇の中心地だった。

新富町駅から湊へ向かう。湊は昔の江戸湊。関西から檜垣廻船や樽廻船で運ばれた物資が小型舟に積み替えられ京橋川・八丁堀を通過して江戸市中に運ばれた。新富町付近の高速道路は昔の川や堀を埋め立てて造られている。

■鉄砲洲

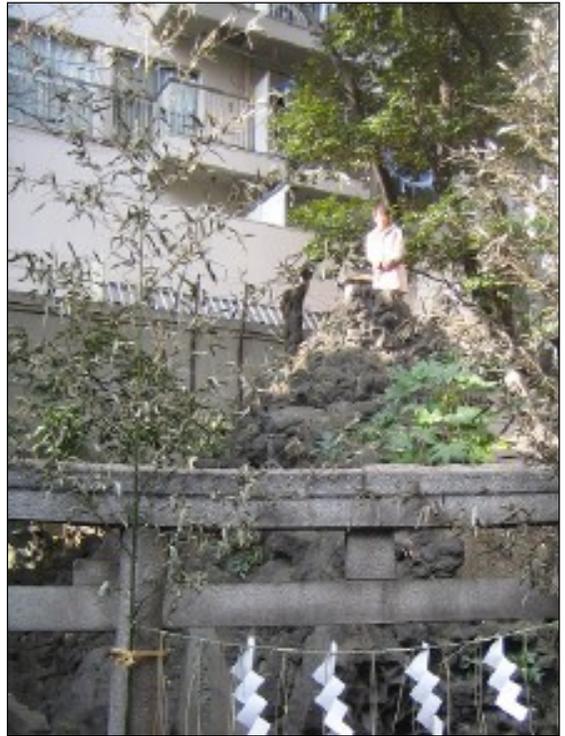
鉄砲洲は京橋川と隅田川の合流付近の細長い洲のことで、ここから芝浦あたりまでを江戸湊といった。州の形が種子島(鉄砲)に似ているとか、ここで砲術の訓練や試射をしたとか、由来はいくつかあるが定かではない。鉄砲洲の内側は埋め立てられ、築地となり、西本願寺が立った。南端は明石町で、明治の頃は外国人居留区だった。今も聖路加ガーデンなど昔の名残がある。

■鉄砲洲富士(中央区湊1-6)・・・①

鉄砲洲稲荷神社の社殿奥に高さ3mほどの熔岩積みの富士塚がある。背後は高いビルに囲まれているので眺望はまったくない。広重の絵にはここから江戸城、富士さんがくっきりと見えるように描かれているのだが。

広重の絵では、鉄砲洲稲荷橋・湊神社となっている。廻船の船乗りたちには崇敬されていたようで、「浪よけ稲荷」とも称せられた。

その場所は今の鉄砲洲稲荷の場所ではなく、少し上流の高橋近くの稲荷橋脇で、八丁堀りに面していた。鉄砲洲稲荷神社は2007年には創建1167年祭というが、今の地に移ったのは明治3年(1870)のことである。富士塚は1873年に移築されたが、その後も境内を何回か移動し、邪魔にならない今の場所に移された。富士講はすでになく、稲荷社の神主さんが7月1日の山開きなどの祭祀を代行している。お願いすれば登ることは可能である。富士講の石碑は多数。中央区指定の有形民俗文化財になっている。頂上に立つのは大きさを比べるための人物で、木花咲耶姫像ではない。



お岩稲荷・高尾稲荷 ひどい目にあった女性達

■お岩稲荷（中央区新川 2-25-11・・・②・四谷於岩稲荷田宮神社 新宿区左門町 17）

お岩さんと言えば「東海道四谷怪談」の主人公。たしか四谷に「於岩稲荷」があったはずだ。お墓は西巢鴨の「お岩通り」の妙行寺にある。こんな場所にもう一つ於岩さんがあるとは知らなかった。由来を読むと歌舞伎の市川左団次から「四谷まで毎度出かけていくのでは遠すぎる。是非とも新富座のそばに移転してほしい」という要望をうけ、明治 12 年（1879）隅田川畔にあった田宮家の敷地内に四谷の於岩稲荷と同じものを造ったそうだ。

四谷怪談では、田宮伊右衛門が愛人のお梅さんと一緒になるため、乳飲み子を抱えた奥さんのお岩さんに毒を飲ませ、お化けのように顔が腫れ上がったお岩さんは「この恨みはらさでおくものか」と言って亡くなったという恐ろしい話だ。お梅との祝言の日、亡霊となってお岩さんがあらわれた。

・・・本当のところはお岩さんと伊右衛門は仲むつまじい夫婦で、お稲荷さん祀りあげられるほどだった、という。しかし仲むつまじいお岩さん夫婦の亡くなった 200 年後に、鶴屋南北はお岩さんの名を借りて勝手に怪談仕上げた。田宮家にとってはいい迷惑だった。お岩さん夫婦はあの世で怒っている事だろ。

■高尾稲荷（中央区日本橋箱崎町 1 0）・・・③

宝永 5 年（1708 年）の元旦に、下役の神谷喜平次が見回り中、川岸に首級が漂着しているのを見つけて手厚く埋葬した。吉原・三浦屋の花魁高尾太夫に仙台侯伊達綱宗が惚れ込み、太夫の目方だけの小判（おそらく 5 億円）を積んで請出そうとしたが、道哲という愛人がいた高尾は見向きもしなかった。怒った綱宗は、隅田川三又の舟中で高尾太夫を逆さに吊るし、首を切り落としたという。隅田川の河水は太夫の血で紅に染まった。

世の人は喜平次が見つけた首級が高尾太夫のものとして崇め、稲荷信仰と結びつけて高尾稲荷として祀った。稲荷神社はもとの日本銀行の跡にあったが、三井倉庫の建設に伴い、社殿とご神体の頭蓋骨（世にもめずらしいご神体）は現在地に移された。

綱宗は伊達政宗の孫で仙台藩第 3 代藩主だったが、暗愚なために 21 歳で隠居させられたという経歴を持つ。かわいそうな高尾。しかし一説には高尾の墓は松島瑞巖寺にあり、仲むつまじく暮らしたという話もある。



永代橋・豊海橋 赤穂浪士がわたった橋

■豊海橋

高尾稲荷から富岡八幡に行くには永代橋を渡るが、その前に日本橋川にかかる豊海橋を渡る。

「豊海橋鉄骨の間より斜に永代橋と佐賀町辺の燈下を見渡す景色、今宵は名月の光を得て白昼に見るよりも稍画趣あり・・・」

と永井荷風の断腸亭日乗にある。荷風がみたのはこの辺りと見当を付け写真をとってみた。夜はライトアップされる。



■永代橋

永代橋は隅田川に架けられた4番目の橋。ちなみに1番目は千住大橋、次に両国橋、3番目が新大橋、「ありゃ新大橋はけっこう古いのだ。」そして永代橋。元禄11年(1698年)8月、5代将軍徳川綱吉の50歳を祝して、深川の大渡しのあった場所に架けられた。永代橋という名は佐賀町付近が永代島と呼ばれていたからという説と、幕府が未永く代々続くようにという説がある。永代島には永代寺があった。

文化4年(1807)、永代寺の敷地にあった富岡八幡の大祭に押しよせた大勢の見物客の重みで橋桁が崩落、1500人をこえる犠牲者が出た。「永代橋」落橋事件は歌舞伎や芝居でくり返され、人々の脳裏に刻まれていた。

「永代とかけたる橋は落ちにけり きょうは祭礼 あすは葬礼」(太田南畝)

■佃島

永代橋の上から大きな中央大橋が見える。東京駅から佃島への最短コースにかかる橋である。この島は摂津(大阪)の国の佃村の漁民を移住させた地で、白魚漁や佃煮で有名であった。広重の絵にも永代橋からみた佃島の白魚漁の様子が描かれている。お譲吉三の「月もおぼろに白魚の かがりもかすむ春の空・・・」もこの辺りからみた時のセリフだろう。佃島には漁民の守り神、住吉神社がある。住吉さんには山の神様であるお富士さんはない。

■赤穂浪士休息の地・・・④

元禄15年(1702)12月15日早朝、赤穂浪士は本所松坂町の吉良邸討入り後、一ツ目通りを通り、途中乳熊(ちくま)屋味噌店で甘酒の接待を受けて休息したのち永代橋を渡り、豊海橋を渡って高輪泉岳寺へ向かった。地図を見ると「おかしいな？」と思うかもしれない。しかし当時の永代橋は今よりも上流にあった。すなわち豊海橋脇の記念碑の付近に永代橋がかかっていたようだ。実は先日、本所松坂町(今は両国3-13-9)の吉良邸から泉岳寺まで歩いてみたときに気がついたのだ。

富岡富士 かなり寂しいお富士山、昔はよかったのに！

■ 門前仲町……門前ってどこの門の前？……⑤

門前仲町駅の周辺には、富岡八幡宮と深川不動尊がある。八幡さまの前なら宮前であって門前ではない。深川不動尊は成田不動の出開帳の場所で、明治14年に造られたものだから、この寺の門前でもない。

実は永代橋のところで書いたように、ここには永代寺という大きな寺があり、その門前だったのだ。江戸の時代の古地図には永代寺門前と画いてある。神仏混淆の時代、永代寺の住職と富岡八幡宮司を兼ねていた。もとは永代寺の方が大きく由緒があったのだが、明治元年の廃仏毀釈により廃寺になった。片方がなくなっても、敷地さえ引き継げば実質的には変化はなかったので、すんなり廃寺になったようだ。しかしここにあった江戸六地藏も右の錦絵にあるお富士もなくしてしまったことは、大きな損失だった。

今現在、深川不動尊の参道に永代寺という小さな寺がある。永代寺の末寺の吉祥院が後に永代寺を名乗ったもので、元の永代寺ではない。

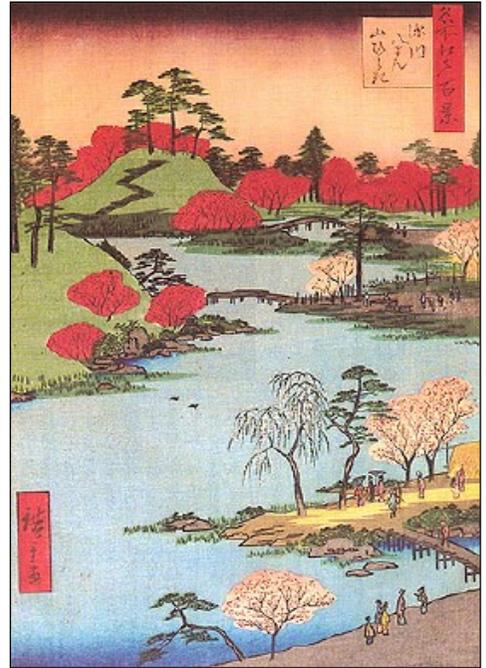
■ 富岡八幡宮

深川の八幡様と親しまれる「江戸最大の八幡様」で、そのお祭りは、日枝神社の山王祭、神田明神の神田祭とともに「江戸三大祭」に数えられている。3年に一度の大祭は黄金のお神輿をはじめ大小120基ものお神輿が出る。写真でしかみたことはないが、ものすごい人出だ。境内には相撲の横綱の碑や伊能忠敬の像もある。伊能忠敬は測量に出る時必ず八幡宮に詣でてから出発した。

もとは砂村の富賀岡八幡から深川永代寺の敷地に勧請されたものだが、江戸の人には寺よりも八幡の方が人気が高かった。永代橋落橋事件は深川八幡の人気を示すものでもあった。

■ 富岡富士（江東区富岡町1-20）……⑥

広重の絵には、「深川八まん山開き」とある。永代寺の庭に造られた富士山で、3月21日から公開されていた。その日は弘法大師の御影供（みえいく）の日だが、だれも気がつかず、富士山に登っていたと記録されている。永代寺とともに富士山もなくなったが、近年富岡八幡宮の中に1mほどの小さな富士山が再建された。富岡八幡ともあろうものが、こんな貧弱なものをなぜ許したのか。かなり恥ずかしいし、残念だ。砂町の本家富賀岡八幡のお富士さんの方がはるかに立派だ。ぜひ作り直して欲しい。



清澄庭園にも富士山が・・・富士塚ではなさそう

■清澄庭園の富士山（江東区清澄 3-3）・・・⑧

清澄白河は清澄と白河を合わせた地下鉄の駅名だ。清澄は清住弥兵衛町さんが開拓したので、昔は弥兵衛村だったが昭和になり清住、そして清澄になった。

白河は寛政の改革で有名な白河藩主松平定信の墓が霊巖寺にあることから名づけられた。清澄白河駅はその中間にある。

清澄庭園はもとは紀伊国屋文左衛門の別荘という話もあるが本当は久世大和守の屋敷で明治になって岩崎弥太郎が買い取り、三菱の従業員の保養所に使われていた。その後東京府に移管され、東京都の庭園第一号になった。

清澄庭園内に富士山があるのだが、これは富士講の富士塚ではない。でも東京の富士山には入れておきたいと思っている。



■六地藏・・・⑦

松平さんの墓がある霊巖寺に江戸六地藏のひとつがある。六地藏は街道の出入り口におかれ、道中の安全を守ってくれた。第1番は東海道筋にある品川寺、2番は甲州街道新宿の太宗寺、3番中山道の巢鴨真性寺、4番は奥州街道の東禅寺、第5番は白河の霊巖寺、第6番は千葉街道の永代寺だった。しかし永代寺は廃寺になり、地藏様もいなくなり、今は5地藏である。お富士さんといひ六地藏といひ、永代寺を廃寺にしたことは、江戸文化をかなり壊したということだ。ちなみに巢鴨真性寺の六地藏はおばあさんの原宿の「とげぬき地藏」ではない。

■深川めし

日本五大銘飯のひとつ「深川めし」はざっくりと切った葱と生のあさを味噌で煮込んで熱いご飯に「ぶっかけた」漁師の知恵の一品。深川は江戸時代は漁師の町として栄え、江戸前の魚貝類や海苔などを捕る漁師が大勢おり、良質のあさりやカキがとれ、それらが深川名物だった。

砂町富士・・・こっちが本家の八幡様、富士塚もすばらしい！

■砂町の富岡八幡宮（元八幡）

地下鉄東西線南砂町の元八幡に行く。富岡八幡はこの八幡様を勧請したものだから、こちらが本家である。富岡八幡宮というが通称は元八幡、バス停もそうになっている。深川の富岡八幡宮の富士塚は貧弱だったが、こちらの富士は立派である。ぜひ

こっちも見てほしい。

昔はここらあたりは海岸砂州であった。摂津の国の砂村新左衛門が砂州の内側の干潟を干拓して新田を作ったことから砂村新田と名づけられた。新左衛門が砂丘を新田変えたので、砂村という名前ももらったのだと私は思うのだが。

創建年代は不明だが、源三位頼政や大田道灌が崇敬していた宮だったが、長盛法印という人が寛永6年に深川に宮を移し富岡八幡宮とした。しかし元の社は残っており、村人は元八幡とよび崇敬した。

洲崎からこの宮へ続く葦原の道の両側には桜が植えられ、満開の時には大勢の客がきたという。広重も「砂むら元八まん」で、桜の景色を描いている。

■砂町富士（江東区南砂7）

八幡様の本殿の裏手には溶岩で固めた5mほどの高さの立派な富士塚がある。周囲には富士講の石碑がいくつも立てられているし、登山道もお中道もあり、小御岳神社もある第一級の富士塚である。案内板には高さ10mとあるが、そんな高さはない。

写真は雪をかぶった富士山ではなくイチョウの落ち葉をかぶった富士塚。頂上に立つのは木花咲耶姫ではない。大きさが分かるように立ってもらった。



亀戸富士 浅間社は立派になったが富士塚は掘ったらかし！

■亀戸富士（江東区亀戸9-15-7）

江東区には富岡富士と富賀岡八幡の砂町富士、それに亀戸浅間神社の亀戸富士がある。古い写真を見ると立派な富士山があったのだが、再開発により浅間神社が隣に移転した。富士塚は発掘され、様々な遺跡がでてきたが、2007年現在、その跡は掘ったらかしのままで、復元されていない。柵で囲った中には富士講の石碑がいくつも放置してあり、これでは持ち去られるか、風化してしまう。文化財としてきちんと保存しなければいけない。



ここには富士講創建者である食行身禄の碑もある浅間さまである。本殿をきれいにするだけでなく、富士山再築にも力を入れてほしい。

雷富士・中割富士 葛西にあるお富士さん。ともに移転した富士塚

■雷富士（いかずち）（江戸川区東葛西 4-38）

東西線葛西駅の周りに2つのお富士山がある。砂町から清砂大橋を渡れば真っ直ぐだから足を伸ばしてみるのも良い。清砂大橋からの通りは新しくできた道で現在は雷香取神社の前で行き止まりになっている。

この神社の、隣に真蔵院（雷不動）というお寺がある。本殿の脇に鳥居があり富士塚がある。富士塚はたいてい神社の中にあるものだが、前回の護国寺のように寺の中に鳥居が立っている例も多い。昔は神仏は一緒だったのだから、問題ない！高さは2mほどだが、塚の脇に富士講・浅間神社の石碑が並んで建てられている。小さいがさっき回った富岡富士よりははるかに立派である。もともとこの富士塚は雷香取神社の境内にあり、もっと大きかったが、道路の拡張で神社が動き、富士塚は隣のお寺に移動したようだ。



■大般若祭り

真蔵院では、毎年2月最終日曜日に天下の奇祭といわれる「雷（いかずち）の大般若」が旧雷町会（東葛西4〜7丁目）で行われる。江戸末期にコレラが蔓延し、真蔵院の和尚が大般若経を背負って家々を回ったところ、被害がなかったことから始まった。女装するのは、結核にかかった妹のために、兄が妹の長襦袢を着て厄払いをしたからという。私はまだ見たことないので来年こそ行ってみるぞ！

■中割富士（江戸川区東葛西 7-18）

天祖神社境内にある。この神社は旧東宇喜田村中割の鎮守で、神明社だったが、明治5年に天祖神社になった。区画整理に伴って平成元（1989）年、東葛西9丁目から移転。富士塚は昭和初年に丸葛・葛西講によって旧天祖神社境内に築造されたものだが、神社の移転にもなってここに移築された。

高さは3mほどで、直線状の登山道が上に続いており、登ることも可能。熔岩積みで立派。裾野の丸い石は昔地元の青年達が力くらべをした力石である。



※次回は6月30日 7月1日は富士の山開きの前夜祭。

西武池袋線江古田駅前の浅間神社境内 10:00 集合

お富士さん山開き！

- ◆ 江古田富士…茅原浅間神社（国指定重要有形民俗文化財）
- ◆ 長崎富士……富士浅間神社（国指定重要有形民族文化財）
- ◆ 池袋富士……氷川神社、夏越の祓え、茅の輪くぐり
- ◆ 十条富士……富士神社、縁日はすごい賑わい
- ◆ 田端富士……田端八幡神社、隣の赤紙仁王がおもしろい

7月1日は富士山の山開き。今年は雪が多く、本物の富士山はこの日に山開きができそうにもないとのことですが、東京のミニ富士さんは例年通り山開きが行われます。本日行く江古田、長崎、池袋のお富士さんはふだん扉が閉ざされていますが、この日だけは登ることができます。（長崎富士はたぶんダメ）1年に1回の貴重な日なので、がんばってたくさんお富士さんをまわってみましょう。



大人のための科学塾『みわ塾』

HP: <http://kazmiwa.sakura.ne.jp>

■江古田（えごた？ えこだ？）

西武池袋線の江古田周辺には日大芸術学部、武蔵大学、武蔵野音楽大学などおしゃれな大学が集まっている。北口の改札口は小さいが大学生達が多く利用する。階段をおりた目の前には、2001年に道路拡張工事に伴って石垣が新しくなった浅間神社がある。「新編武蔵風土記稿」には、富士浅間社と記載されているが、通称は茅原浅間神社とよばれた。昔は一面の茅原だったからという。現在は門柱に浅間神社と書かれている。



ところで、西武線の江古田は「えこだ」であるが、最近できた大江戸線の新江古田は「えごた」と読む。どっちが本当なのか地元の人に聞いてもよく分からない。今のところ中野区側はえごた、練馬区側はえこだとすみ分けているようだ。わが奥さんの説によれば、昔エゴの木があったからだという。確かに武蔵野にはエゴの木はたくさんある。なんとなく本当のような気がするが、「新編武蔵風土記稿」には「えこた」と濁らないふりがなが振ってある。ある説によれば荏胡麻ではないかという。横浜には荏子田という場所がある。こっちは荏胡麻らしいが、同じようにえごたと読むそうだ。地名の読みはなかなか難しい。

■江古田富士

上の写真は江古田駅のすぐ前にある浅間神社入り口で、鳥居の奥に拝殿があり、その奥にお富士さんがある。高さ8メートル、直径30メートルだから、都内の富士塚としてはもっとも大きいものの一つである。昔の姿をよく残しているということで、国指定の重要有形文化財になっている。重文の富士塚は都内には3カ所ある。ちなみにこの他は、後で行く「長崎富士」、明日行く入谷にある小野照崎神社の「下谷坂本富士」である。

この富士塚を作ったのは地元の小竹丸祓講で、その名をかいた石碑が残されている。現在この講は消滅しているようで山開きの行事は浅間神社の宮司さんが執り行っている。浅間神社の鳥居をくぐって登り始めるといくつかの石碑が出てくる。その中に丸祓講大願成就、大先達政行・篠喜太郎と書いた碑がある。篠一族は昔の豪農で、現在も板橋練馬の名家のようだ。大願成就というのは先達として本物の富士山へ33回登山したことをいう。今だって33回も登るのは大変だ。先達様はえらかった。



■長崎富士

我々の間では有名な「文寿整骨院」のすぐ前の公園にこの富士塚がある。ふつうはどこかの神社やお寺の境内に塚が築かれているのだが、ここは管理する講がないので、区の管理する公園の一角におかれている。しかし重要文化財なので放っておくことはできず、とりあえず金網を張って立ち入り禁止にしてある。山開きといっても、登山する方法はないので、金網の外側から眺めるしかない。



高さは8メートル、直径は21メートルだから、江古田のものよりもちょっと小さいだけだ。建設当時の様子がよく残っているので、重文になったという。昔の富士塚の規模はほぼこんなものだったのだろう。

立派な鳥居があり、富士塚の頂上には一応コノハナサクヤ姫を奉る富士浅間神社があるという。社殿や拝殿はどこにもみあたらない。

この富士塚は長崎村の「月三講」の人々によって作られたと説明版には書いてある。たくさんある石碑の中に、大先達・篠安太郎の名前が見える。椎名町の元講と書いてあるから篠一族はこの辺りにも勢力を広げていたのだろう。その碑には、富士に26回、中道八海九度とある。これは富士山のお中道、ふもとの忍野八海のことだ。石碑の文字を眺めるのはなかなかおもしろいので、みなさんぜひ写真をとっておいて、説明してください。

■長崎

西武線に東長崎という駅がある。町名は東長崎、南長崎という名前だ。九州の長崎の人が移住してきたのかと思ったが、そうではなく徳川家康が来る前からあった古い名前らしい。もともとは鎌倉時代、伊豆の国長崎の人たちがここに住んだらしい。椎名町駅前には長崎神社があり、長崎小学校などなど豊島区の中でも古い地名だ。



■池袋 氷川神社

「不思議な不思議な池袋、東に西武で西東武」の歌のように、池袋駅の西武デパート側は東池袋、東武デパート側は西池袋である。池袋というのは駅からちょっと離れており、池袋本町というのはさらに離れて、北池袋と下板橋の間になる。これから行く氷川神社は池袋本町にあるので、池袋からはかなり歩かなければならない。



池袋駅から SEKI 根さん推奨の貼り薬「糾励根」のビルの前をとおり平和通を抜けて川越街道を渡り、板橋宿に向かい古い道を行くと、氷川神社にでる。この辺り一帯の鎮守様でけっこう盛大なお祭りが催される。ちょうど「夏越（なごし）の大祓え」の最中で、正面には写真のような茅の輪くぐりがしつらえてある。六月最後の日に、半年の間に身体にたまった罪や穢れを払ってもらうために茅の輪をくぐるという神事である。今はたいていの神社で行われている。真ん中から入って左へ回り、また中心へ戻り、中心から入り今度は右に曲がりまた中央へ戻り、又中央から左の方へ円を描くように回る。∞の字を描くように回り、最後にそのまま拝殿に向かってお参りすることになっている。

「みなづきの 夏越の祓 する人は 千とせのいのち のぶといふなり」
「風そよぐ 奈良の小川の 夕暮れは 禊ぞ夏の しるしなりけり」

■池袋富士

<富士塚の説明文から>

富士塚は、さまざまな理由から富士登山ができない人たちも、これに登れば富士山に登ったのと同じ霊験が得られるとして、江戸時代後期以降、東京都域および近隣地域に各富士講集団を単位として築造されたものである。高さ約五メートル、東西幅約十二メートル、南北幅約十八メートルを測り、全山がボク石で覆われている。登山道は正面部分に雷光形に設けられており、その道筋ははっきり確認できる。

この池袋富士塚は、明治四五年（1912）六月に池袋 月三十七夜元講によって築かれた



ものである。塚内に造立された講碑から、歴代先達の名前や近隣の富士講集団とのつきあいの様子が知られる。一般に、富士塚の石造物は、頂上に奥宮、中腹に向かって右には小御獄社をあらわす石祠、中腹向かって左には烏帽子岩を配するのを基本としている。池袋富士塚の石造物は、こうした特徴を備えているほか、経が岳（日蓮ゆかりの霊地）を示す題目碑、合目石、講碑、教祖角行像、一対の天狗像、さらには胎内が配置されており、充実した石造物群を構成している。



豊島区に残された数少ない富士塚の一つとして、また池袋本町地区に展開した民間信仰を考えていくうえでも貴重なことから、平成十年六月に東京都豊島区指定史跡となり、保存がはかられている。<平成十一年三月 東京都豊島区教育委員会>

■月三十七夜講

三十七夜というのは何だろう。二十三夜なら分かるが、昔だって一月は三十日までだったはずだ。どなたかに聞いてみなければいけない。上の石碑のマークは「月三」と読めるのだが……

大先達にも元祖があるのだ。本家もあるのかなあ？

■池袋富士 <03年、山開きの日のブログに書いたものです>

右の写真は池袋富士の頂上である。ふだんは囲いにカギかがかかっており、入ることはできない。昔は子どもが登って遊んでいたようだが、今は文化財保護、子どもの安全上から、まあしかたがないことかもしれない。

この富士さんは東上線北池袋から近い氷川神社にある。板橋には氷川神社が多くある。一応我が家も氏子になっている板橋仲宿の氷川神社にも小さな富士塚（榛名さんとの説もあり）がある。池袋富士は6月30日と7月1日の山開きの日には開放され、お山に登ることができる。ここも我が家に近いので、毎年お富士さんに登りに行くが、今年はこの日に合わせて高野山からやって来たというお坊さんと一緒になった。この方は長い時間、富士塚の頂上でお経を上げていた。氷川神社にある富士塚にお坊さんが参ることにちょっと違和感をもったが、もともと日本の宗教は神仏混淆だった。とくに密教系の寺院では山岳修験が盛んであり、先日お参りした京都の醍醐寺でも、熊野奥駈け修行は重要な行事とされている。

富士講の創始者は長谷川角行という人で、富士山の人穴で永禄元年（1558）に、四寸角



の上に爪先立って千日間の立ち行の末に悟りを開いたとされる。さらに富士登山百数十回、断食三百日など数々の難行苦行を行い 106 歳で人穴で入寂したと伝えられている。人穴は富士の朝霧高原にある風穴の一つである。

■※ちなみに 「熊野奥駈け」

吉野から熊野へと続く大峰山系を縦走することを「大峰奥駈け」という。奥駈け道には「七十五摩（なびき）」といわれる行場が設けられている。摩の一番は熊野本宮の証誠殿で、熊野本宮が大峰奥駈けの出発点ということになる。昔はここに山伏の宿坊が建ち並んでいた。

熊野奥駈けは天台宗の園城寺聖護院系（本山派）が先に始めており、熊野から吉野に向かって七十五摩で行をした。このコースを順峰（じゅんぶ）という。その後真言宗の醍醐寺三宝院系（当山派）の山伏は逆コースで摩をたどった。それを逆峰（ぎゃくぶ）とよんだ。現在では吉野から熊野を目指す逆峯が大峰奥駈けの一般的なやり方になっている。もともとは役行者のひらいた熊野修験道の道だったが、紀州藩の宗教政策によって熊野三山は神仏混淆していき、今の熊野は神社の地になっている。

十条富士 今日山開き、縁日が開かれる。子どもたちはこの日を楽しみに！

■十条富士 縁日

東京のお富士さんといったら、ここが一番人気で、縁日は脇の道路はすべて閉鎖され、屋台はズラーと並び、埼京線の線路をこえて十条銀座まで続く。大勢の浴衣姿の女の子が屋台を眺めて回っている。一番目立つのは選挙のたすきみたいなのをしたお母さんたち、たすきにはナントカ中学PTAと書いてある。お母さんたちの活躍の場だ。夜までにぎやかな明かりが輝いていた。日本の夏、お富士さへんって感じだ。



富士塚を文化遺産として見るのもいいのだが、現在に生きている「お富士さん」として地元の人々が楽しんでいるのはすばらしい。昔は何とかの縁日と称して、子ども達は夜遅くまで遊んでいい日になっていた。きっと何の縁日かは分かっていないんだろうが、みんなで楽しむ日という思い出は残るだろう。私は今から 35 年ほど前、このお富士さんの近くに住んでいた。篠原演芸館もすぐそばにある下町情緒を残したい町だ。当時こんな縁日はどこにでもあったと思っていたが、富士講の山開きで、これだけの人出があるのは、他にはほとんどない。

たくさんの屋台が並ぶ。きっと昔は寅さんもこんなところで、「見上げたもんだよ屋根やのふんどし・・・」などと商売をしていたのだろう。

■十条富士

JR埼京線十条駅、京浜東北線東十条からも近く、昔の岩槻街道にそった崖の上に立っている。東十条方面から見上げたらものすごい高さだろうが、道路面からは六メートルほどの高さ。登りやすいように階段が付けられているが、もともとぐるりとまわる登山道があった。今も下りは横の下山道を降る。山開きの時にはすごい人が上り下りするので、コンクリート製階段はしかなかった。



この富士塚はもともと大六天神社があった場所だ。その前は古墳だったとの説もあるが、詳細は不明。富士塚を作ったのは十条富士神社の伊藤元講で、この講が毎年6月30日・7月1日に大祭を執り行っている。参詣者は、頂上の石祠(せきし)を参拝する前に線香を焚く。これは富士講の参拝の形式だという。

石碑は本郷の富士神社にあるのと同じように毒々しい赤色で染めてあるが、これはどんな意味があるのだろうか。石造物が、30数基あり、銘文によれば天保11年(1840)10月には富士塚として利用されていたことがわかる。

鳥居や頂上の石祠など16基は明治14年(1881)に造立されている。この年は、富士講中興の祖といわれた食行身禄(じきぎょうみろく)の150回忌に当る。この年伊藤元講を中心に塚の整備が行われたようだ。

■七富士巡り

七福神めぐりと同じように都内「七富士めぐり」というのがある。だれが決めたのか分からないが、以下のような。下町の富士山が一つもない!・・・、品川富士、千駄ヶ谷富士、下谷坂本富士、江古田富士、十条富士、音羽富士、長崎富士だそうだ。

昨年駒込の富士神社で出会った富士巡りの講の方々は、千住宮元富士からやって来たとの話だった。いくつもの七富士巡りを作った方がいい。

■麦わら蛇

お富士さんの縁日当日、境内で売られているのが縁起ものの「麦わら蛇」。単に蛇(じゃ)とも呼ばれ、駒込の富士神社境内で江戸時代から売られていた。富士神社は竜神信仰と関係が深く、十条の富士神社でも昔は「雨乞い」の儀式が行われていた。夏に日照りが続くと、村人たちが富士神社に集まり、麦わらで数メートルの大蛇を作り、若い衆がそれを担いで、村中を練り歩き、お富士さんのご神木に大蛇を巻きつけて雨が降るように祈願した。



■赤紙仁王

J R線田端駅は崖の下にある。改札をでて東台橋をくぐって南に下がり、最初の信号を右手に曲がると、東覚寺の不動堂前に奇妙な赤い柱がある。赤い紙がびっしりと貼られた仁王様だという。中身が仁王様なのかお地蔵様なのか全く分からない。

昔からの民間の信仰はおもしろい。身体の悪いところに赤い紙をはってお願いすればぴたりと治るのだそうだ。みなさん身体の至る所が悪いようで、隙間なくびっしりと貼られている。前回見たしばり地蔵さまも同じような信仰だった。後樂園の近くにあるこんにやく閻魔様にある塩地蔵もやはり同じで、体中に塩がべったりくっつけられて形も見えなくなっていた。医療の乏しかった昔のことではなく、科学万能の今の時代こんなにも盛んなのは、何か心の支えが欲しいのだ。精神的なストレスが多い時代を象徴しているできごとなのだろう。



■田端富士

赤紙仁王さまの脇に田端八幡神社の参道がある。御輿を入れる建物を見ながら奥にはいると社殿に向かう階段の右手に小さな階段がある。この上に田端富士三峯講が奉祀する富士浅間社と三峰社がある。富士浅間社では毎年二月二十日に「富士講の初拝み」として祭事が行われている。7月1日の山開きには何の行事もないようだ。



ここの富士さんにも何回か来ているのだが、めぼしいエピソードはない。いくつかの調査はなされているらしいので、調べてみたい。

調査報告書は 北区教育委員会『田端富士三峰講調査報告書』（文化財研究紀要別冊第九集、東京都北区教育委員会生涯教育部社会教育課、1996

07年6月30日、のお富士さん巡りはこれで終了。あす7月1日も連続で富士山巡りがありますので、よろしく。浅草雷門前 10:00 分集合です。本日も行くことができなかった小野照崎神社の下谷坂本富士にも行くつもりです。

お富士さん山開き！ 第2弾

予定表では下町の富士ということになっていましたが、03年みわ塾野外授業で、ほとんどまわっていますので、今回は山開きの行事をやっているような千住付近の富士山に変更します。すみません。

- ◆ 下谷坂本富士……小野照崎神社、入谷の鬼子母神の近く。
- ◆ 南千住富士……スサノオ神社、千住大橋のたもと
- ◆ 千住宮元富士……千住神社
- ◆ 大川富士……千住川田浅間神社
- ◆ 千住柳原富士……稲荷神社

7月1日は富士山の山開き。何らかの行事をやっており、今日だけ登れそうなお富士さんをまわります。国指定重要有形文化財の下谷坂本富士。そのあと地下鉄で南千住のスサノオ神社の南千住富士に行き、千住大橋を渡って千住神社の千住宮元富士、大川富士（川田富士）、線路の反対側の千住柳原富士へと移動します。



大人のための科学塾『みわ塾』

HP: <http://kazmiwa.sakura.ne.jp>

■小野照崎神社（台東区下谷 2-13）

この神社の祭神は小野篁という平安初期の儒学者で歌人だ。菅原道真の天神さまとおなじように、学問、芸能の神様として知られている。彼は下野国の国守となり「足利学校」を創立したことで知られる。その後上野の国をへて今の神社の近くの照崎の地にしばらく居を構えた。当時この付近の人は小野篁のことを「上野殿」と呼んだので、この辺りは上野とよばれるようになった。篁の亡くなった後に、地元の人々が小野照崎大明神として祀ったのが起源になっている。



小野一族は古代からの名家、小野妹子の子孫で、小野小町、小野道風など有名人がいる。といっても本当の話か？ 小野小町は秋田県出身だから新幹線も「こまち」、先日行った福島県の小野町は本家と言うし、茨城県新治村も出身地と称している。

全然話は違うが「小町算」という数遊びがあるという。次のようなものだ。何でこれが小町算なのかといえば、美しい数字列だからだそう。

$$1+2+3-4+5+6+78+9=100$$

$$123-45-67+89=100$$

$$1\times 2\times 3\times 4+5+6+7\times 8+9=100$$

$$1+2+3+4+5+6+7+8\times 9=100$$

$$1\times 2\times 3-4\times 5+6\times 7+8\times 9=100$$

■浅間神社

小野照崎神社の中にはいくつもの末社があるが、その中に浅間神社があり、富士塚が作られている。浅間神社のご祭神はご存じ 木花開耶姫命（このはなさくやひめのみこと）。・・・古事記によれば、天孫ニギノ命が大山津見神の娘、木花開耶姫命（コノハナサクヤヒメ）と結婚。ニギノミコトに一夜の交わりで妊娠したのを疑われたコノハナサクヤヒメが、疑いを晴らすために、産屋に火を放って、その中で火照命（海幸彦）、火遠理命（山幸彦）を生んだ。山幸彦は大綿津見神の娘トヨタマヒメと結婚しウガヤフキアエズを産む。しかしトヨタマヒメは正体がワニだったことを知られたために海に帰り、妹のタマヨリヒメがウガヤの世話をする。ウガヤとタメヨリヒメは結婚し4人の子どもを設ける。その一人がカムヤマトイワレビコ、すなわち初代の神武天皇である。

浅間神社の行事に火祭りがあるのは、このようないわれがあるからである。

■下谷坂本富士（台東区下谷 2-13）

この富士塚は都内に残る唯3つの国指定有形民俗文化財で7月1日の山開きは盛大に行われ、マスコミで賑わう。ふだんは登ることはできないがこの日に限って登山ができるので、我々も登ってみましょう。ここの解説版には以下のような文言がある。



『室町時代末期に角行という人が世の中の乱れに苦しみ、富士山に登り天下泰平、五穀豊穡の祈願をし、天下が治った処から富士山信仰が起きました。当講の大先達である南沢正兵衛という人が江戸にこの富士山信仰を広く布教し、その人の門人で下谷坂本村にすむ山本善光が、当社の氏子はもとより江戸八百八町まで広く浄財を募り、富士山より岩石を運び天明年間（1782年）富士山と同型の築山を完成し、その麓に浅間神社を奉斎しました。その後文政11年に大修復され、また現在東京に残っている富士塚の中で最も大きく荘厳な姿を有しています。毎年6月30日、7月1日の両日に限り一般の登拝に開放されており、「六根清浄」の唱え詞と元気な子供達の歓声が夏の風物詩となっております』

南千住富士 スサノオ神社にある古い塚（小塚）が富士塚か？

■南千住……小野照崎神社から地下鉄入谷駅から南千住に出る。

千住の宿場は北千住側で、千住大橋の南側の小塚原村あたりはその昔は宿場にはなっていなかった。小塚原には仕置き場（小塚原刑場）がある寂しいところだった。浅草の方から来ると泪橋のところで刑場にひかれる罪人との最後の別れをしたという。なんやら哀しく、暗いイメージのところだったが、南千住の駅の東側の汐入地区には大きなビルが建ち



ならび、今風の巨大なショッピングモールもできひたすら明るい風景を醸しだしている。いつまでも「コツ通り」のイメージではいけないだろう。

■スサノオ神社（荒川区南千住 6-60-1）

スサノオの命はアマテラス大御神の弟で、乱暴狼藉を働く悪者だった。だれの手にも負えなくなり、それを恐れたアマテラスさんは岩屋に隠れてしまった。あの天の岩戸の物語だ。ついにスサノオは高天原から追放されて下界に降りてくる。最初に新羅に降り、ここから出雲に移った。そこでヤマタノオロチを退治して、天叢雲剣（草薙の剣）を手に入れ、大蛇に食べられそうになっていたクシナダ姫を妻にする。乱暴狼藉であったが、地上に降りてからはいろいろ活躍し、大国主命の大大おじいさんとい

うことで尊敬を集め、祀られることになった。スサノオは全国の八坂神社、氷川神社（簸川でヤマタノオロチを退治した）、スサノオ神社に祀られている。神仏混淆のころには祇園精舎の守り神である牛頭天王と混淆されていた。神仏分離に際して祇園さんは八坂神社になり、牛頭天王社はスサノオ神社になった。江戸の絵地図をみれば南千住のスサノオ神社は牛頭天王社とかかれている。

■蘇民将来

この神社でも「茅の輪くぐり」が行われている。これにはスサノオにまつわるいわれがある。ここのお札にも「蘇民将来子孫也」という文字が書かれている。「備後風土記」では武塔神（むとうのかみ・スサノヲノミコト）が南海路へ向かう旅の途中、裕福な巨旦将来に一夜の宿を乞うた。しかし彼はにべもなく断った。一方、巨旦将来の兄の蘇民将来は、貧しいながらスサノオ神を暖かく迎え入れもてなした。スサノオは大変喜び、「疫禍あれば茅の輪を作り門に懸けよ」とおおせられた。疫病が流行したとき蘇民将来は教えられたとおりに茅の輪を揚げた。疫病は蘇民将来の家を避けて、一家は災厄から逃れることができた。蘇民将来の一族は護られ、彼の子孫は後々まで大いに栄えた。「蘇民将来子孫也」の札をつけた茅輪や杉葉を門口に揚げておけば疫厄除けとなり、一家は繁盛するという信仰が生まれた。蘇民将来は、八坂神社境内にある疫神社の祭神になっている。

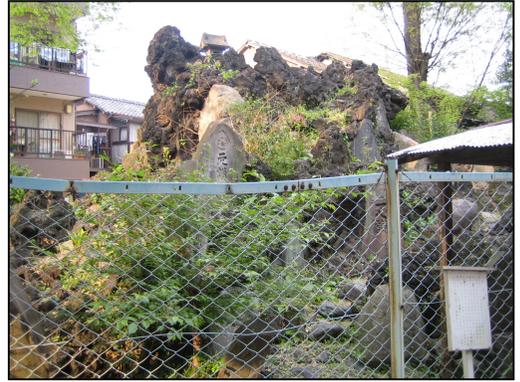
■南千住富士（荒川区南千住 6-60-1）

素盞雄神社社伝によれば、修験道の開祖・役小角の高弟である黒珍という人物が、住居の東方にある奇岩のある塚上を霊場とし、日夜齋戒礼拝していた所、延暦14年（795）4月8日の夜、小塚の中の奇岩が突如光りを放ち、スサノオ大神、アスカ大神の二柱の神が老人の姿を借りて降臨し、「吾れを祀らば疫病を祓い、福を増し、永くこの郷土を栄えしめん。」と御神託を授けられたのを受け、黒珍が祠を建てたのがはじまりであるとされている。昔は古塚と言ったらしいが、いつの間にか小塚になり、この辺りは小塚原となった。



この塚は1864年に溶岩を積み増して富士塚に改装され、富士浅間社となっている。その中腹の祠の中に瑞光石が祀られている。瑞光石は表面に小穴がぼつぼつとあいた「房州石」で、安房国の鋸山の近くで採取される。この石は埼玉や東京の6世紀後半～7世紀台の古墳の石室材として広く用いられており、この房州石の存在により、この塚も古墳ではないかと推定されている。

このお富士山は高さ4メートルほどで登山道、お中道、小御獄社の碑、人穴も作られている。富士講の石碑も多く、山丸講、山丸灌講、東講、山富講、丸参講、丸藤講などいくつもの碑が建てられている。これらは2006年郷土資料館の調査報告が出ている。富士山の登山口には小塚には似合わないほどの大きな鳥居があり、両側に飛鳥社と天王宮のちょうちんが下がっている。ここが本来の社殿だったのだ。



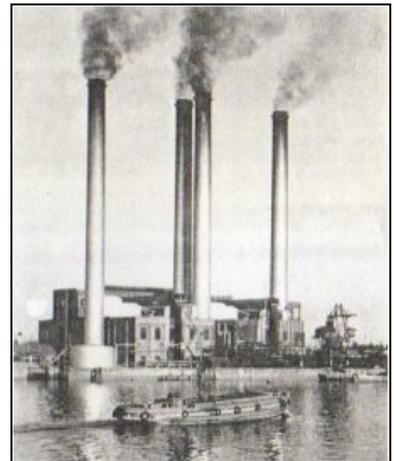
千住宮元富士 千住のおふじさん

■千住宿

日光道中の最初の宿場で、東海道の品川宿、甲州街道の内藤新宿、中山道の板橋宿とあわせて四大宿場だった。江戸へ二里八町、武蔵国草加宿へ二里八町、という場所にあった。松尾芭蕉は千住大橋からこの街道を日光に向けて歩き出した。「奥の細道」には最初の泊まりは草加とあるが、それは芭蕉忍者説を隠すためのウソで実際は八里先の春日部まで1日で行っている。やはり芭蕉はただ者ではなかったのだ。

ももとの千住の宿は今の北千住の辺り。本陣も脇本陣も、遊里もこちら側にあった。

千住といえば私たちの年代ではお化け煙突というのも思い出の景色だ。これは千住桜木町の隅田川縁にあった東京電力の火力発電所の4本の煙突で、見る方向によって、1, 2, 3, 4本にみえるというものだった。昭和39年東京オリンピックの年に取り壊され、今は資材置き場になっている。



ところで、千寿ネギをご存じだろうか。明治時代に東京の鍋屋が「飛び切り甘くて煮崩れをおこさず、それでいて口の中に入れるととろける葱がある」と宣伝し、瞬く間に東京中の鍋屋、蕎麦屋、焼き鳥屋、すき焼屋などの料理職人の間に広まった。現在でもこれらの店の約八割は千寿葱が使われている。この人達が独占してしまうので一般には知られてはいないそうだ。ネギはともかく、このあたりの小学校はすべて千寿で、千住とはかかない。これはなぜだ。聞いてみなければ。足立区在住の田口さん、教えて！

■千住神社（足立区千住宮元町 24-1）

千住大橋を渡って日光街道から千住宮元町へ左折すると千住神社が見える。由来によれば千住に集落が形成され始めた延長4年（926）土地鎮護と五穀豊作を祈って稲荷神社を創立した。後に武蔵国一宮、氷川神社の御分霊を勧請し氷川神社を創立した。このために長い間稲荷神社と氷川神社の2つの神社があり、村人は「二つ森」と呼んだそうだ。明治6年には稲荷神社を氷川神社に合祀し西森神社と改め、さらに大正4年千住神社と改称した。祭神はお稲荷さんのウカノミタマ命と氷川さまのスサノオ命である。延命稲荷もあるそうなので関根さんどうぞお参りを！

■千住宮元富士（足立区千住宮元町 24-1）

社殿の脇に金網で囲った富士塚がある。黒ボクと称せられる富士の熔岩で覆われているが、ふだんは登ることはできない。写真をとるにも金網が写ってしまって風情はない。本日は写真チャンス。私も登ったことがないので、今年は楽しみです。石碑を少し観察してみよう。

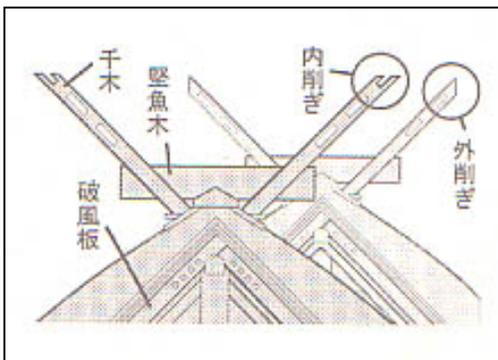
丸参講、丸藤講などの富士講石碑が多数あり、貴重な資料になる富士塚である。



大川富士 荒川のほとりにあるお富士さん。川田富士とも言う。

■氷川神社（足立区千住大川町 12-3）

足立区には氷川神社は多い。武蔵国の一宮はさいたま市大宮の氷川神社である。これはすばらしく大きく格式も高いような気がする。そこで板橋区、足立区などには多くの氷川さまが勧請されたのだろう。前にも書いたように氷川さまの祭神はスサノオ命、本日はスサノオ街道ですなあ。氷川さんは近くに寄り添った男女神社がある。男女は千木と鯉魚木の数でだいたい分かる。内削ぎで偶数は女、外削ぎで奇数は男であることが多い。ちなみにスサノオさんのお姉さんを祀る伊勢神宮内宮は内削ぎで10本、外宮の豊受神宮は外削ぎ9本である。



■千住川田浅間神社 富士塚（通称大川富士）

<説明文による>

富士塚は文政7年（1824）築造。祭神は木花開耶姫命（このはなさくやひめのみこと）。現在地に移築される以前は、町の西北（元宿）川田耕地に、氷川社、稲荷社、浅間社が同じ境内に鎮座していた。明治四十四年荒川放水路開削工事開始に伴い、大正五年五月、現在地よりやや西側に移築された。その後東京都の水道幹線工事のため、昭和四十三年六月現在地に移築復元され、今日に至っている。

塚は富士山の熔岩を積み上げ、固めて築造され、高さ三メートルである。

山頂に、天保二年（1831）銘の石碑が安置されている。塔碑が多く、最古の碑は文政七年（1824）のもので丸藤惣同行富士三十三度大願成就とある。

この講社は、高田（早稲田）の身禄同行の枝講で、講名は丸藤千住十三夜同行と呼ぶ。講中は、千住五丁目と、千住大川町全域に及び、かつては対岸の埼玉講を含む広範囲な地域の農民中心の講社であった。毎年七月一日祭礼が行われる。

平成六年三月

荒川の土手から下がったところにある氷川神社境内にある。社殿の横に、なかなか立派な塚がある。マラソンをしている途中で偶然見つけたので、気分はいい。私は時々ここにやっけてきて、木花咲耶姫さまにお会いすることにしている。

ここの講は現在でも健在で、7月1日のお山開きには講の方々が大勢集まり、盛大に行事を行っている。我が仲間の SAKURA 井さんのお友だちも定年退職後元気でがんばっておられるようだ。七富士参りも行われているので、どこどこへいくのか聞いてみなければ行けない。

千住柳原富士 稲荷神社の隣にある富士塚。

北千住駅のまわりの町の名前はすべて千住なんとか町である。先ほどの千住宮元町、千住桜木町、千住橋戸町、などなど。宮元町、桜木町、橋戸町で十分通用するのに「千住」という頭が必要だったのだ。なかなか郷土への愛着が強い地域だ。安倍総理のいう美しい国造りのヒントになるかもしれない。

さてその千住柳原町、千住の中でも特別にゴチャゴチャした細い路地が入り組む町だ。稲荷神社を探すのに多いに苦労した。でも入れてくれないはずの富士塚も宮司さんの奥さんと話をしている内に、どうぞと言うことになった。うるさい犬を「かわいいね！」などと心にもないことを言ったのが功を奏したのかもしれないが、まさに下町の匂いがプンプンという場所だ。好きな人には気分がいいし、いやな人は速く逃げ出したい地域かもしれない。しかし今どき東京都にもこんな向こう三軒両隣の町があるなんて。縁台をだしてビールを飲みながら通る人とちょいとした話をするなんていい感じなのだが・・・

■千住柳原稲荷神社（足立区柳原 2-38-1）

<説明文から>

当社の創建は詳らかではないが「葛西誌」に「慶長4年(1599)の鎮守の云」とある。しかし柳原村は、元禄年間に葛飾郡小谷野柳原村より分村独立しているので、それ以降に村の鎮守として祀られたものであろう。江戸期にあっては理社院持ちであった。祭神は、宇迦御魂神。明治十二年の東京府神社明細簿によると、本社殿、拝殿、境内二百三十五坪(官有地)とあり、境内社として、高木神社(産霊神)と日枝神社(大山咋神・東照宮)の二社があり、氏子は三十五戸と記されている。



高木神社は江戸期の第六天社で、神仏混淆をされた明治以降に改称した。また日枝神社は高木神社に合祀された。

■千住柳原富士（足立区柳原 2-38-1）

昭和八年、柳原講によって浅間神社が勧請され、富士塚が築かれた。これは昭和五十九年度区登録有形民俗文化財である。講中による七富士巡りなどが行われている。

また当社に奉納される柳原箕輪囃子は、江戸期より伝わる民俗芸能で、区登録無形民俗文化財である。

平成二年十月 東京都足立区教育委員会



※ 8月は暑いのでお休み。9月1日は清瀬のお富士さん。ここでは火祭りが行われませんので、夕方から行きましょう。富士吉田の火祭りに習って、江戸の富士でも火祭りがあったようですが、東京で行われているのは清瀬の中里富士だけだろうと思います。お楽しみに！

足立区のお富士さん……日光街道に沿って！

足立区には10カ所ほどの富士塚が残っている。前回、北千住周辺の3つの富士山（大川富士、千住柳原富士、千住宮元富士）を回ったので、残りは七つ。昔は「七富士巡り」が流行したそうで、私たちも真似ようと思っている。しかし宮城富士だけがちょっと離れているので、これを割愛して、今回は日光街道沿いの六富士に、すぐ先の草加市谷塚の富士山を加えて七富士にしてみた。ちょっと距離は長いですが、電車バスを使って歩きましょう。今回は地元で、何回も富士塚を歩いている田口さんに案内をしてもらいます。

- 綾瀬富士……綾瀬駅近く綾瀬神社境内、熔岩積み
- 五反野富士……西之宮稲荷神社境内、富士講碑多い。
- 小右衛門富士……小右衛門稲荷神社境内。高さはない。
- 島根富士……鷲神社境内。なかなか立派。旧日光街道沿い
- 保木間富士……保木間氷川神社。榛名富士かもしれない。田中正造碑
- 花又富士……花畑浅間神社。社殿のみで、団地の隅に立っている。
- 谷塚富士……草加市、谷塚駅そば浅間神社境内。



大人のための科学塾『みわ塾』

HP: <http://kazmiwa.sakura.ne.jp>

■綾瀬稲荷神社（足立区綾瀬 4-9-9）

綾瀬駅から徒歩3分ほどの所に綾瀬稲荷神社がある。稲荷山観音寺という立派なお寺があるので、その塀づたいに行くと神社の鳥居前にでる。背後には大きなビルがあるので、ちょっと興ざめだ。

稲荷神社は全国に32000社あり、神社では最大の勢力を持っている。その総本社は京都の伏見稲荷だ。赤い鳥居が山の上まで続いている景色は壮観だ。しかしこの神社には赤い鳥居はない。

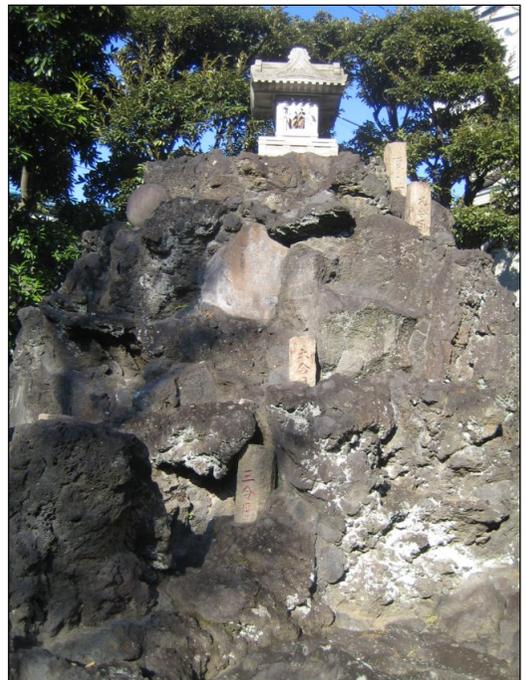
お稲荷さんの祭神は宇迦之御魂神（うかのみたまのかみ）という女神様で、須佐之男神と大山祇神の娘との間の子であり、食糧をつかさどり、稲の成育を守る神様といわれる。お稲荷さんには狐がつきもの。宇迦之御魂神の別名は御饌津神（みけつかみ）というが、それをちょっとシャレて三狐神（みけつかみ）と書くこともあった。そこから狐はお稲荷さんの使いということになって信仰されるようになった。

※ この稲荷の狛犬は落語家の三遊亭円丈さんが寄付したものだ。円丈さんはこの神社がごひいきで、神社の公式HPを作っている。<http://enjoo.com/ayaseinari/>



■綾瀬富士（案内板の説明）

この富士塚は、神社境内右手南側にあったが、昭和2年に現在地に移築された。塚は、溶岩で固めた岩山であり、高さが約2mある。富士塚の頂上には、浅間社を祀つる祠が安置され、裏面には昭和2年7月1日の銘がある。塔碑のうち、明治42年7月、山包丸瀧講中の碑は、先達金子五兵衛外世話人によって献碑されたものである。最も新しい碑は山包綾瀬講富士登山記念碑で、昭和36年7月に建立している。講社は、はじめ山包丸瀧講といい、この地の旧名称瀧江領の頭文字を丸で囲み、丸瀧といった。農民を中心に綾瀬村で結成された。江戸時代より農民に広まった富士山信仰を伝えるものとして、この富士塚を昭和58年12月に、また、山包丸瀧富士講関係資料一式を昭和62年11月に、それぞれ区登録有形民俗文化財とした。



この富士塚は、フェンスで囲ってあるので登ることはできない。しかし小さいのでそばで詳しく見ることはできる。熔岩積みで、登山の道には合目の石碑もあり、洞穴もある。この富士塚を守っていた山包講（やまかね？ 案内板にはさんぼうとある）は今はない。この富士山の山開きは綾瀬稲荷の宮司さんが執りおこなっている。

綾瀬稲荷から首都高5号線をくぐり、綾瀬川を渡って西に進むと、東武線のガードをくぐる。すぐに右手に行くと新装なった神社にでる。これは西之宮稲荷神社だ。背後には東武線の高架橋が見える。道路の反対側は五反野小学校だ。

五反野富士 西之宮稲荷神社 石碑がたくさんある富士塚。

■西之宮稲荷神社（足立区足立 3-28-16）

この地域（旧弥五郎新田）には三つの神社があったが、明治三年に「東之宮」を合祀し、大正元年には荒川放水路開鑿に当たり「稲荷神社」を合祀して、地域の総鎮守となったという。現在の社殿は平成12年に完成した。西之宮は地名ではなく、もとのお宮の名前、東之宮の名前はどこへいったのかな？

綾瀬稲荷について、ここもお稲荷さんである。お稲荷さんのお使いは狐。狐はあぶらあげが大好き。いなり寿司は稲荷神社からでたもの。

この神社の社殿はなかなか立派だが、この建築方式は住吉造といい、大阪の住吉さんが本家で、稲荷社の総本家である伏見稲荷の造りとは違っている。まあそんな細かいことは気にしていないところが下町的でなかなかいい。社殿の右側に富士塚がある。

■五反野富士

2000年に社殿が新築されたのに伴って、富士塚も移築され、きれいに整えられて、登山することはできなくなった。もともとは大正時代に造られたらしいが詳しい事は不明。社殿新築前には案内板があったが、取り外されたままだ。

高さは3m弱の熔岩積みで、登山道、お穴もある。丸参講の石碑がたくさんある。しかし羽黒三山の碑、日光二荒山などの碑もあり、移築されたときにそのあたりから適当に寄せ集めたのだろう。昭和57年に区の有形文化財になったが、こんなに変更してはまずいんじゃないかな。



小右衛門富士 小右衛門稲荷神社 ほとんど高さのない登山路

■小右衛門富士

東武伊勢佐木線の梅島駅から旧日光街道を環七方面に向かい、交番の先から右手にはいると小右衛門稲荷神社の鳥居が見える。鳥居を入れて左手に折れると正面に社殿が見える。その右手に富士塚があるのだが、ただの植え込みと見間違えるようだ。登山道がつけられ、合目の石柱もあるが、まったく登った気はしない。こんな富士山もめずらしい。



地図には 1.48mの三角点が富士塚付近にあるはずだ。あれば「日本一低い富士山」だったが、地盤沈下で埋もれてしまったようだ。国土地理院も埋没、使用不可と公表している。残念。

ところで、これまで3つの富士山とも、稲荷神社にあった。何でこのあたりは稲荷ばかりなのかなあ。

島根富士 鷲神社

■鷲神社（足立区島根 4-25-1）

《案内板によると》

祭神 日本武尊 誉田別命 国常立命
末社 三峯社

鷲（わし）神社は、旧利根川水系に多く祀られているが、当社は文保2年（1318）武蔵国足立郡島根村の地に鎮守として創建され、大鷲神社と唱えたと伝える。島根村は現在の島根・梅島・中央本町・平野・一ツ家等の全部または一部を含む大村であった。村内に七祠が点在していたが、元禄の頃、このうち八幡社誉田別命、明神社国常立命の二柱の神を合祀し、三社明神の社として社名を鷲神社に定めたという。



社殿は氏子中の寄進により、昭和三一年九月再建され、境内の整備も行われた。祭礼時に神楽殿で奉納される島根ばやし、島根神代神楽は昭和五七年十二月、同六十三年十一月にそれぞれ区登録無形民俗文化財とした。また境内にある享和二年（1802）の明神型石造鳥居は昭和六十年十一月区登録有形文化財とした。

※ お参りしているおじさんは、定年退職の日に日光に向けて第一歩を踏み出す覚悟を報告している。

■島根富士

《これは富士塚の碑の解説》

富士は日本一の山。日本人の心の古里である。今でこそ登山が日常化してはいるが昭和の初め白装に身を固め「六根清浄」を唱え乍ら、信仰の山、最高の修業の道場としてあがめられていた富士山。当時の神国日本の尊い山であった。島根の若者が「丸藤十三夜同行」として先達富岡小三郎氏に引率されて、何人もの人が島根富士講から出発している。村ではその帰着に合わせて牛車に万燈を仕立て島根ばやしのおはやし入りで村中の人が迎えに出た。千住大川町の氷川神社まで往きは子供達が大勢乗り込んで帰りは「六根から来る一切の迷いを断ち切って心身清らかに」なった島根の若者が行者姿も凛々しく仕立ての牛車に乗せて鷲神社まで帰った。富士塚に無事帰着の報告祭を行った。登山で日焼けした若者達がまるで修行を積んだ聖人の様に私達子供の目にうつった。先達の富岡氏が鷲神社に残してくれた神社の富士塚も幾星霜経て破損がひどく、この際復元した方が良からうと云う事になり七月一日浅間祭までに工事を完了するべく地元有志の献身的な奉仕を頂き、此々に完成に至る。

昭和六十三年七月一日 氏子中

保木間富士 保木間氷川神社 保木間の誓い！

後半の3カ所はちょっと離れているので、歩くのはきついでバスで移動します。



■氷川神社（足立区西保木間 1-11-4）

竹の塚駅から東の方向に 500mほど、
瀏江小学校の隣にあり、竹の塚の鎮守社
である。

氷川さまの本社は武蔵の国の一ノ宮で
ある。全国に 261 社あり、埼玉県に 462
社、東京には 68 社ある。武蔵の国造一族
は出雲の分派なおで出雲の神様である須
佐之男命を祀っている。

氷川は出雲の斐伊川に由来している。
中世には武士の守護神として尊崇されて、
関東に根付いた。ちなみに祇園（八坂神
社）は牛頭天王を祭神としているが、神仏混淆では須佐之男命と牛頭天王は同じ神様
である。



■田中正造と保木間の誓い<案内板から>

1890 年に発生した足尾銅山鉍毒事件は近代史上で特筆される公害事件である。1898
年（明治 31 年）9 月群馬県邑智郡・栃木県安蘇郡などの被害住民 3000 人が鉍毒被害
を訴えるため上京した。被害問題に取り組んだ田中正造（当時衆議院議員）は、同年
9 月 28 日、上京する被害住民とここ保木間氷川神社で出会い、鉍毒問題の解決に努力
するという演説を行い、被害住民を帰郷に導いた。この時被害住民は涙して演説を聞
いたといい、これを保木間の誓いという。当時東京府南足立郡瀏江村だったこの地
では、村長塚田正助と村会議員が、上京途中憲兵や騎馬警官による阻止・排除を受けた
被害住民に炊き出しを行って出迎え、被害住民と共に正造の演説を聞いた（「田中正造
日記」）。こうした被害住民への支援は瀏江村の人々と被害住民の農民同士の連帯感に
よって支えられたという。

■保木間富士

ここの狛犬は熔岩の土台の上に立っ
ている。奥にある塚も熔岩積みで、2 m の
高さがある。

富士塚と書かなかったのは、塚の頂上
にも鳥居にも榛名神社と書いてあるから
だ。富士塚は浅間神社か富士神社に造ら
れているのだから、榛名神社にあるのは
おかしい。しかし脇にある石碑は富士塚
修理の記念であるし、山の途中にある碑
は丸参講の富士講の碑である。私は富士
講の碑から考えて富士塚であると思っ
ている。榛名山に間借りしている富士塚
ってことにする。他の富士塚でも湯殿山
とか羽黒山、榛名山などの碑がある。ご
っちゃになっているのもまた庶民の知恵
かもしれない。



花又富士 団地の中で独立した富士山 これぞ独立峰！

■花又富士（足立区花畑 5-10-1）

この地域は昔は花俣あるいは花又村とよばれていた。しかし明治 22 年の合併に際して花畑村になった。この辺りは昭和 39 年に花畑団地ができるまで、純農村地帯であった。所々に古墳らしい高まりがあったが、地元の人達はなんだかよく分からないがさわってはいけないものと考え、大事にしてきたが、団地建設の際にはそのほとんどが跡形もなく、つぶされたという。



この富士さん昔の名前のまま「花又富士」としている。写真のように団地のなかの空き地に、本物の富士山のように独立して立っている。普通の富士塚は神社やお寺の境内の一角に造られているが、ここは全く自主独立。

昔はこんな富士塚があったのだろうが、講を守る人がいなくなれば自然消滅して、岩は持ち去られた。戸外にこんな立派な富士塚が残っているという事は、この辺りの人達の信仰心が厚く、大らかだった事の証拠だろう。足立区にはいい人がたくさんいるという事かな！

■花畑浅間神社富士塚《案内板》

富士塚とは、富士山を信仰する人々の集団である富士講によって築造された塚である。富士山の溶岩石を使用して小山を築き、頂上には浅間神社の祠を祀り、烏帽子岩、小御岳社をはじめ、実物の富士山と同様に各名所を配するのが一般的であり、登山して参拝できるようになっている。富士信仰は、文化・文政年間（1804～1829）に江戸を中心として爆発的に広まり多くの講中が結ばれ、講の発達に伴い富士塚の築造も盛んに行われるようになった。この富士塚は、千住神社、保木間氷川神社の富士塚と同じく伊藤参行を講祖とする丸参講による築造である。築造年代は明らかではないが、石鳥居の年代や伝承より明治初年と考えられている。また、花畑大鷲神社には、この講中により明治 5 年の記年のある富士登山絵馬が奉納されている。

花畑浅間神社は社殿を持たず、富士塚の頂上に祀る浅間社をそのまま社名とし「野浅間」といわれている。神社の北側を流れる毛長川流域には、多くの古墳や遺跡の存在が確認されており、この神社もその形態から古墳を利用したものと考えられており興味深い。

北側を毛長川がながれており、下流で綾瀬川に合流する。川の両側には古墳群があったことが知られている。竹の塚、谷塚などはその名残なのだろう。

七富士にこだわって、毛長川の向こうに行ってみるか、まあ六つでもイイヤと保木間の温泉「じゃぼん」（足立区保木間 4-41-12）（800 円火曜日 60 歳以上 400 円）に浸かるのもいい。この温泉は天然温泉で地下 1300m からくみ上げている。地下の増温率は 100 m で 3℃ であるから、1000m 掘って地下水にあたれば 30℃ にもなっている。今は 1000 m くらい分けなく掘れるので東京には温泉が乱立しているのだ。温泉だけでなくガスが出てくる事もあるけど。地下水くみ上げ禁止で地盤沈下は止まったのだが、温泉くみ出しで、再発しなければいいのだが。少々心配している。

谷塚富士 毛長川の両側には歴史的な遺跡が多くある。

さて毛長川を渡ると埼玉県草加市。草加というのは芭蕉が「奥の細道」で最初に泊まった宿場と云う事になっている。いやいやそれは芭蕉忍者説をごまかすために創作しただけで、実際は初日に 30km 先の越谷宿に泊まっている。千住大橋を昼頃出立したのだからふつうの人は午後だけで 30km も歩けるはずはない。しかし芭蕉は苦もなく行っている。忍者の訓練をした人だからだ。それを知られないように 8km 先の草加宿に泊まった事にしたのだ。芭蕉もなかなかやるなあ。芭蕉は「はせお」と署名している。本当は「馳男」と書きたかったのだろう。私もあやかりたいのだが、アキレス腱が切れた身には、草加もはるか遠い場所だ。

■谷塚富士（草加市瀬崎町 510）

草加市瀬崎町の鎮守として知られる神社。創建年代は不詳で、小高くなった土地の上に鎮座している。浅間神社は旧入間川（毛長川）によって形成された自然堤防上に所在している。人工的に盛り土された可能性が高く、『新編武蔵風土記稿』に刀や曲玉、人骨の出土が記録されている「加賀屋敷」の古塚もある。浅間神社の土台も谷塚古墳群を構成する古墳を流用したものだろうと考えられている。



境内の東側に富士塚があるが、ここも小高くなっており、円墳を崩した跡に建てられたと思われる。この富士塚もまた、谷塚古墳群を構成する古墳の一つであるのかも知れない。

▲次回は 11 月 6 日（火） 江戸川区の富士塚めぐり

都営地下鉄・瑞江駅改札口 10:00 集合

下鎌田富士、上鎌田富士、今井富士 などなどを巡ります。

江戸川区のお富士さん……もっともたくさん富士塚が残る地域！

江戸川区には私の知るところだけで14の富士塚がある。この地は近年急速に市街化が進み、区画整理がなされているので、たいていの富士塚は移転、移築されている。昔のままでなければ意味ないという方もおられるだろうが、移りゆく時代の流れのなかで、今はこうなっていることを知るのも、富士山巡りの楽しみなのではないかと思っている。今回は以下の七富士です。

- 上鎌田富士……瑞江駅近く、南篠崎天祖神社 四角の熔岩積み
- 下鎌田富士……瑞江駅近く 豊田神社 熔岩積み 柵がある
- 今井富士……旧江戸川沿いの香取神社 熔岩積み
- 長島富士……香取神社 この辺りは道が入り組んでいる。
- 桑川富士……桑川神社 環七に近い、分かりにくい。
- 雷富士……東西線葛西 真蔵院境内 神社にあった？ 石碑多数
- 中割富士……東西線葛西 天祖神社 あたらしく移築



大人のための科学塾『みわ塾』

HP: <http://kazmiwa.sakura.ne.jp>

上鎌田富士 下鎌田富士 新しく移転した熔岩積みの富士さん

江戸川区は広く、1日で全部回るのは難しい。今回は都営地下鉄瑞江駅から七富士参りを始めるつもりです。この駅は1986年開業の新しい駅で、それまではこの辺りの交通はバスのみで、けっこう不便なところでした。今区画整理がほぼ整い、昔の畑は住宅地マンションに変わっています。それに伴って神社も移転し、一緒に富士塚も移築されています。

■上鎌田富士 南篠崎天祖神社（江戸川区南篠崎町2-54）

瑞江駅前を北東側にしばらく歩くと南篠崎三のバス停にでる。そこを右に回ってしばらく行くと天祖神社にでる。この神社は南篠崎の鎮守さまで、昭和45年に建て替えられた神明造りの社殿を持っている。

この社殿の左手奥に上鎌田富士がある。その解説書には次のように書かれている。残念ながらもう丸星講という富士講はない。今の時期、天祖神社の氏子の皆さんが、境内で菊祭りをやっているのでもお話を伺えるかもしれません。

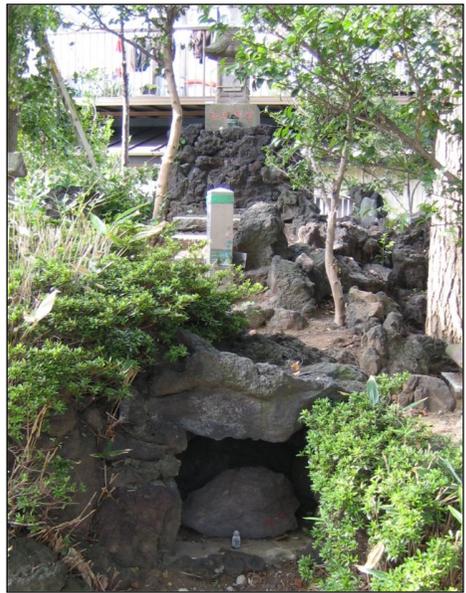
昭和58年（1983）3月登録

江戸川区登録有形民俗文化財・民俗資料

富士塚は、富士信仰の団体である富士講の人たちが、富士山の容姿をかたちどって築きあげた小高い塚です。富士山に登ったのと同じ霊験得られるようにと願って築かれました。

上鎌田の富士塚は、明治19年（1886）に旧上鎌田村の丸星講の人々が築造しました。塚の高さは約1.5メートルで、面積は広く、円墳に近い形をしています。頂上には、「浅間神社」の石祠がまつられています。区民の民間信仰、社会、文化、生活を知る上で、貴重な資料です。

平成14年1月 江戸川区教育委員会



上鎌田の富士塚 胎内巡りもある。

篠崎にはもうひとつ江戸川沿いに浅間神社という大きな神社がある。この神社は塚の上（たぶん古墳）に大きな社殿があり、お富士さんと親しく呼ぶのをはばかりられる感じだ。しかし富士講の石碑が一基しかないで富士塚と言えるかどうか。

私はその浅間さまに回ることも多いのだが、その途中に、おもしろいものを見つけた。個人の家の中にある富士塚だ。天祖神社のものより大きく、塀の上に熔岩積みの山が1mほどつきだしているのでも、周りからも見える。

この辺りは富士信仰がさかんで、個人の家にもあったんだと、感動してそのお宅に

おじゃましてみた。家人は興味がないらしく、「おじいさんが勝手に作ったんですよ」と言い、邪魔だからどかしたいんだけど大きすぎて困っているとのことだった。石碑などはないので富士塚とは言えないが、他にも案外個人の住宅の中にも残っていることがありそうだ。しかしよその人がお参りをすることも出来ないのも、もし本物の富士塚だとしても、そっとしておく方がよさそうだ。



■下鎌田富士 豊田神社（江戸川区東瑞江 1-18）

南篠崎の天祖神社の前の道を、瑞江三中を右手に見ながら戻ってくると、東部公園がある。その一角に豊田神社がある。

この神社の住所は、案内書には 瑞江 2-5 となっているが、区画整理が進み、東部公園の一角に移転してきたので、今の住所に変わっている。瑞江三中のバス停の前に真新しい鳥居が建ち、神明づくりの社殿もまだ新しい。

富士塚は社殿左手にあるが、柵があるので中には入れない。しかし柵越しに写真を撮ることは出来るが、後ろのマンションの洗濯物がどうしても画面に入ってしまうので、いい写真が撮れなくて困っている。

下鎌田の富士塚の説明を下にあげておく。



下鎌田の富士塚 江戸川区登録有形民俗文化財（民俗資料）

富士塚は、富士信仰の団体である富士講の人たちが、富士山の容姿をかたちどって築きあげた小高い塚です。実際に富士山に登拝することの出来なかった人たちも、この富士塚を参拝すれば富士山に登ったのと同じ霊験があると信じました。

この下鎌田の富士塚は、大正 5 年、旧下鎌田村の下鎌田割菱八行講の人々によって築造されたと伝えられています。高さ 3メートルで、全山全山ボク石（熔岩）でおおわれ、正面には「く」の字形の登山道がつけられ、中腹に石祠が祀られています。

塚の背面には大沢崩れを模したような所がありまた中腹左には小御獄神社の石祠があります。下鎌田割菱八行講は現在も盛んに活動し、7月1日の山開き、8月28日の火祭り、毎月の月並み祭りを行っています。

昭和 60 年（1985）3 月 江戸川区教育委員会

下鎌田の豊田神社から今井の香取神社へは、篠崎街道に出た方がわかりやすいが、車が多いので私はいつも裏道を回っていく。区画整理がしていない場所には、案外いいお寺や神社が残っている。

■八雲神社

この神社の脇から篠崎街道にでる。この神社の手水鉢の紋がなかなかおもしろい。こういうのを「祇園守紋」という。祇園の八坂神社の紋で、真ん中の×印は筒なのだが、これを十字にみだててキリスト教と関係があるという人もいるそうだが、この神社では2本のきゅうりと見立てて、きゅうりをお供えするのだそうだ。考証家の説より、庶民の発想の方がおもしろくていい。



八雲神社の道路を挟んだ先に、鳥居が見える。水神社の鳥居で、昔の江戸川の土手なのだろう。

■香取神社（江戸川区江戸川 3-44）

浦安へ抜ける街道の今井橋の手前に香取神社がある。この辺りは道路の方が高く。神社へは少し下がる。社殿は水害に遭わないように、土台がかなり高くなっている。



旧今井村の総鎮守で、経津（ふつ）主命を祀っている。経津主命はアマテラスによって天から遣わされ、武甕槌（たけみかずち）命と二人で、出雲の大己貴命（大国主）と国譲りの交渉をする神様である。

武甕槌命は鹿島神宮（常陸一宮）の神として、経津主命は香取神宮（下総一宮）の神として、祀られている。平安時代には、神宮といえば伊勢神宮、鹿島神宮、香取神宮の三つしかなかったという重要な社なのだ。さらにちなみに藤原氏の氏神である奈良の春日大社はぜひいたくにも武甕槌命、経津主命を祀っている。

■今井富士

香取神社の右裏手に今井富士がある。全山熔岩積みで、高さは 2.5m ほど。登山路もつけられており登ることも可能だ。富士講の石碑や富士講中興の祖である食行身禄の碑もある。この辺りは水に浸かることも多かったようで、この富士塚もコンクリートでがっちり固められている。



神社の創建は古いが、この富士塚の築造は昭和5年（1930年）と、案外新しい。富士講は江戸時代に盛んだったが、昭和の時代まで続いていたのだ。富士塚は熔岩を船で運ぶようになって、たくさん作られた。

今井富士の解説

昭和58年（1983）3月登録

江戸川区登録有形民俗文化財・民俗資料

香取神社境内の北側に富士塚と富士講の記念碑が建っています。

今井の富士塚は、旧上今井村の上今井割菱八行講によって、昭和5年に築造されました。高さ2.5mで、頂上に石祠をまつり、登山道の途中に「浅間神社」と刻んだ碑があります。そのほか、「元祖食行身禄」の碑や烏帽子岩、力石などを配しています。

また富士塚のふもとは寛延4年（1751）建立庚申塔（青面金剛）があります。

平成14年3月 江戸川区教育委員会

長島富士、桑川富士 古い町並みに残る町のお富士さん

■香取神社へ（江戸川区東葛西2-34）

今井水門の先で旧江戸川と新中川が合流する。バスにのってコンクリートの堤防下を葛西方面に向かう。東葛西三のバス停でおりて、香取神社を目指す。この辺りは区画整理が進んでいないので、昔の名残を示すクネクネ道が多く、神社探しはオリエンテーリングのようで結構楽しい。

長島の富士塚

昭和58年（1983）3月登録

江戸川区登録有形民俗文化財・民俗資料

富士塚は、富士信仰の団体である富士講の人たちが、富士山の容姿をかたちどって築きあげた小高い塚です。富士山に登ったのと同じ霊験得られるようにと願って築かれました。

長島の富士塚は、旧長島・桑川両村の山玉参拝講の人たちが、明治41年（1908）に造りました。現在の塚は大正6年（1917）に再築されたものです。塚の南側には、「御山築設之由来」と刻まれた碑が建てられ、由来と二百名以上の講員がいたことが記されています。

塚の高さは約4メートルで、区内の富士塚の中では規模が大きい方です。頂上には「浅間神社」と刻まれた石碑（明治41年銘）があり、上部はボク石（溶岩）、下部は丸い自然石で囲まれています。今でも7月1日の山開きと、8月26日のかがり火たきの行事が行われています。

平成14年1月 江戸川区教育委員会

香取神社はいくつもあるのでお富士さんある香取神社と聞いて、バス停から皆さん自分で探してください。300m以内にあるはずです。

境内には富士塚の解説板があるが、さらにこの地が葛西レンコンの産地だったというJAの看板もある。今はまったくの住宅地だが、昭和40年代までは湿地帯でレンコン作りには適した地であったという。この辺りには親水公園や浸水緑道がいくつもあるが、これは昔の水路後である。

■長島富士

頂上の石祠まで入れると高さは4mほどになり、今日の富士塚では一番大きいものである。山玉参拝講という富士講の人たちが、明治41年(1908)に作ったもので、大正6年に再築されたという。

今でも7月1日の山開きと、8月26日の「かがり火」とが行われているそうだが、私はまだ見ていないので、来年はぜひその日を選んできてみよう。

江戸川の対岸の浦安にも熔岩積みのいい富士塚がある。この辺りは舟運が発達していたので富士の熔岩を運んで来やすかったのだろう。



ちなみに浦安の富士塚(東西線葛西の次の駅が浦安駅)

- | | | | |
|-------|---------------|---------|-------------|
| ▲清瀧神社 | 浦安市堀江 4-1-5 | 美しい富士山型 | 浦安駅から真南 5分 |
| ▲豊受神社 | 浦安市猫実 3-13-1 | ごつつく立派 | 浦安駅から南東 10分 |
| ▲稲荷神社 | 浦安市当代島 3-9-10 | 石碑あり | 浦安駅から北 10分 |

■桑川富士(桑川神社 江戸川区東葛西 1-23)

長島富士の香取神社からすぐ近くに桑川神社がある。こんな近くに二つの富士塚が残っているのはめずらしい。山頂には浅間神社の大きな石碑がある。浅間は「せんげん」と読むのだが、むかしは「あさま」と読んだ。現在あさま神社というのは、山梨県の一宮、浅間神社だけだそうだ。

この塚の石は「ボク石」と書かれているが、ある所では黒ボク石ともある。地質学、農学ではクロボクは火山灰起源の黒土で、武蔵野台地の畑の土だ。しかし富士塚では黒ボク石と言えば富士の熔岩と言うことになっている。

富士塚の山麓を固めているのは丸い



石で、力石という。昔力自慢の男達がこれを差し上げ力比べをした。さし石とも呼んでいるようだ。重さは100kg以上ある。とても持ち上げられない。昔の人と力比べをしようなんて思わないことだ。

桑川の富士塚 昭和58年3月登録 江戸川区登録有形民俗文化財・民俗資料

この桑川の富士塚は、昭和4年（1929）に旧桑川村の山玉参拝講の人たちが築造しました。高さ約2メートルの塚で、全体はボク石（溶岩）と丸石で覆われています。丸石の中には、力石も含まれています。塚の中腹には、昭和41年（1966）の記念銘のある石祠がまつられ、登山道は丸石の階段になっています。

平成14年1月 江戸川区教育委員会

雷富士・中割富士 葛西にあるお富士さん。ともに移転した富士塚

■雷富士（いかずち）（江戸川区東葛西4-38）

東西線葛西駅の南側に2つのお富士山がある。清砂大橋からの通りは新しくできた道で現在は雷香取神社の前で行き止まりになっている。

この神社の、隣に真蔵院（雷不動）というお寺がある。本殿の脇に鳥居があり富士塚がある。富士塚はたいい神社の中にあるものだが、前に行った護国寺のように寺の中に鳥居が立っている例も多い。昔は神仏は混淆していたのだから、問題はないのだ！ 高さは2mほどだが、塚の脇に富士講・浅間神社の石碑が並んで建てられている。小さいがまあ立派である。この富士塚はもともとは隣の雷香取神社の境内にあり、もっと大きかったが、道路の拡張で神社が動き、富士塚は隣のお寺に引っ越ししたのだ。



■大般若祭り

真蔵院では、毎年2月最終日曜日に天下の奇祭といわれる「雷（いかずち）の大般若」が旧雷町会（東葛西4～7丁目）で行われる。江戸末期にコレラが蔓延し、真蔵院の和尚が大般若経を背負って家々を回ったところ、被害がなかったことから始まった。女装するのは、結核にかかった妹のために、兄が妹の長襦袢を着て厄払いをしたからという。私はまだ見たことないので来年こそ行ってみるぞ！

■中割富士（江戸川区東葛西 7-18）

天祖神社境内にある。この神社は旧東
宇喜田村中割の鎮守で、神明社だったが、
明治 5 年に天祖神社になった。区画整理
に伴って平成元（1989）年、東葛西 9 丁
目から移転。富士塚は昭和初年に丸葛・
葛西講によって旧天祖神社境内に築造さ
れたものだが、神社の移転にもなって
ここに移築された。

高さは 3 m ほどで、直線状の登山道が
上に続いており、登ることも可能。熔岩
積みで立派。裾野の丸い石は昔地元の青年達
が力くらべをした力石である。



■今回は、上鎌田富士、下鎌田富士、今井富士、長島富士、桑川富士、雷富士、中割
富士の「七富士参り」をしました。これは私が勝手に選んだ江戸川区の七つのお富士
さんだ。勝手に選んでいいのかと言われそうだが、いまはもう富士講もなくなっている
ので、勝手に選んでもだれにも文句は言われることはない。

先日七福神を奉っているお寺でうかがったら、「ちょうどいい距離にあるお寺が集ま
って、それぞれの七福神を奉っているんだよ。お寺でも神社でもなんでもいい」との
事だった。そのお寺は七福「神」ではまずいので、七福「人」にしているようだ。宣
伝している七福神でもそんなものだから、自分たちが勝手に「七富士参り」に参って
も問題ないだろう。



■降水確率は 50% だから、今日はたぶん雨でしょう。それでも瑞江の豊田神社と今井
の香取神社ぐらいは見る事ができます。ひどい雨だったら、そのあとバスで江戸川
区役所のグリーンパレスで「富士講と富士信仰」のビデオを見ようと思います。

■次回 12 月 29 日（土） 10:00 京浜急行新馬場駅（品川よりの出口）集合

まず新馬場駅前の品川神社に行きます。ここの富士塚は 10m 近い。レインボーブリ
ッジなどの景色は大変いい。そこから京浜急行羽田線の大鳥居駅。羽田神社の富士塚
を見学する。蒲田まで戻り東急多摩川線で多摩川駅へ。ここで多摩川浅間神社、これ
は巨大、を見学する。ここから本物の富士山を見て、2007 年をふり返り、2008 年を思
う事にします。

東海道のお富士さん……東海道沿いに残る富士山

東海道沿いは古くから開けた場所で、文化程度も高かったと思われるのだが、江戸文化の名残である富士塚はほとんど残っていない。もともとなかったのか、あるいは都市拡張に伴って壊されたのか、いずれにしても民俗遺産継承という一面から見ると、下町のような意識は少なかったのだろう。

今回は東海道筋にのこる富士さんと、多摩川沿いにある大きな浅間神社を見て回ります。それぞれがかなり離れているので、電車を乗り継ぐので、いつもより交通費がかかります。

今回は3富士さん、プラス東海道品川宿、大鳥居、蒲田行進曲など

- 品川富士……品川神社の立派な富士山、頂上からの眺望はいい。
- 東海道品川宿……東海道の最初の宿（1601年指定）
- 羽田大鳥居……穴守神社の鳥居だったが、羽田空港拡張のため移転
- 羽田富士……航空関係者に御利益、羽田神社境内にある。
- 多摩川富士……多摩川浅間神社の社殿自体が大きな富士塚。



大人のための科学塾『みわ塾』

HP: <http://kazmiwa.sakura.ne.jp>

品川富士 品川神社の富士山、いつでも登れる、眺望は最高！

■品川富士（東京都品川区北品川 3-7-15）

京浜急行新馬場駅の前を国道 15 号線、通称第一京浜が通る。昭和 27 年までは国道 1 号線だったが、第二京浜国道が現在の国道 1 号線になっている。しかしこちらの方が本家の東海道筋で箱根駅伝も品川駅から八つ山橋を通り品川神社前を走り抜ける。

この道ができた時に品川神社の富士塚は 10m ほど後ろへ下げられた。道路から高いところに位置するので眺めは大変いい。レインボーブリッジや天王洲の高層ビルなど



みえる。解説板には富士さんの遙拝場所とあるが、私はこの頂上から富士さんを見ていない。こんどは確かめてみたいのだが・・・。

品川神社の鳥居をくぐり、石段を登ると途中から左手に曲がった登山道が見える。登山口には祠があり、その先の洞窟には富士講の開祖である食行身禄の石像が収まっている。像は古いものではない。登山道には二合目、三合目などの石柱がたっている。ぐるっと裏手に出ると品川神社の境内で、ここに浅間神社の鳥居と拝殿がある。こちらから見ると富士塚の高さは 4 m ほどだが、道路側からの高さは 15m にもなる。

富士塚はコンクリートで固められているが、もともとはクロボクとよばれる富士の熔岩だが、それだけでは足りなかったらしく、他の石も使われている。頂上にも浅間神社の祠があり、コノハナサクヤヒメが祀られている。

品川神社富士塚 品川区指定有形民俗文化
(指定昭和 53 年 11 月 22 日 日民俗第 1 号)

富士塚は、富士信仰の集団、富士講の人々が、富士山の遙拝場所として、あるいは実際の登山に代わる山として造った築山である。

品川神社の富士塚は、明治 2 年 (1869) 北品川宿の丸嘉講講中 300 人によって造られた。神仏分離政策で一時破壊されたが、明治 5 年に再築し、大正 11 年 (1922) 第一京浜国道建設の時、現在地に移築された。江戸後期に盛んだった民間信仰を知る上で、大切な文化財である。品川神社富士塚山開き 品川区指定無形民俗文化財

毎年 7 月 1 日の富士山山開きの日に、講員一同が白装束で浅間神社前で「拝み」を行う。その後はだして富士塚に登り、山頂の遙拝所や小御獄の祠でも「拝み」をして下

品川神社

この神社の神様は三柱あり、「北の天王さま」の祭礼で知られている。天王さまというのは牛頭天王のことで、南品川にある荏原神社も天王さまを祭っている。そちらを南の天王さまと呼んで区別している。

牛頭天王(仏教における祇園精舎の守護神)は本地垂迹で素盞雄命(スサノオノミコト)と同じ神様である。

スサノオは天照大神の弟で、

出雲に降りてきて地上を支配した神である。

(品川富士の上から新馬場商店街)

大国主命の奥さんのスセリヒメのお父さんはスサノオ。大国主はスセリヒメと結婚したかったが、スサノオは大国主に様々な試練を与えられた。ひどい目にあったが、いつもヒメの加護で助けられ、めでたく結婚した。因幡の白ウサギの話は試練の旅の途中のできごと。

品川神社の三柱は

天比理乃メ命 (あまのひりのめのみこと)(祈願の神)

素盞雄命 (風水害除、疫病除の神)

宇賀之売命 (稲荷神)(農業、商業、産業繁栄の神)

由緒 社伝では源頼朝が海上交通の安全と、祈願成就の守護神として、安房国州崎神明の天比理乃メ命を勧請し、品川大明神と称したのが始め。鎌倉末期に安房の守護が宇賀之売命を勧請、1478年太田道灌が素盞雄命を勧請し天王祭りが始まった。慶長5年(1600)、徳川家康が関ヶ原へ出陣する前、戦勝祈願したことから繁栄した。

■東京十社の1つ、

明治元年、明治天皇は勅祭神社として大宮の氷川神社、准勅祭神社として『東京十二社』を定めたが、明治三年それは廃止された。戦後は神社の社格もなくなったが、昭和50年、都内の10社が、十社巡りを企画して、今日に至っている。大國魂神社、鷲宮神社は外されて、次の十社が東京十社とされている。

赤坂氷川神社、日枝神社・神田明神・富岡八幡宮・根津神社・芝大神宮・品川神社・亀戸天神社・王子神社・白山神社東京十社は昔から社格の高い神社だと言われるが、十社として有名になったのは最近のこと。



(品川神社初詣2007年)

■品川宿

東海道第1番目の品川宿（1601年指定）は江戸時代には最も賑わう宿場だった。目黒川を挟んで南・北品川宿で構成されていたが、享保7年（1722）歩行（かち）新宿が宿場になり3宿で構成された。宿場には家々が1600軒、住人7000人という活気ある地であった。

宿場での賑わいだけでなく、北の吉原に対し品川は「南」の遊興地であった。

上の浮世絵は広重の東海道五十三次である。今と違って品川宿は海に面していた。広重は品川宿の多くの飯盛り女の姿も画いている。



品川駅は品川区ではなく港区にある。その品川駅を越えて八つ山橋をわたると京浜急行の踏切がある。この道が昔の東海道である。ほぼ京浜急行の線路にそって続いており、いまでも当時の面影を残す場所がある。江戸の頃、東海道は海辺を通ったが今ははるか彼方まで埋め立てが進み、品川富士の上からでも遠くにしか見ることはできない。

品川宿は日本橋から2里半、ほぼ10kmだ。

「お江戸日本橋 セツ立ち 初のぼり 行列そろえて あれわいさのさ コチャ高輪 夜明けて 提灯消す コチャエー コチャエー。」

明け六ツが夜明けだから、セツ立ちというのはその2時間前。弥次さん喜多さんも品川にきたときにはすっかり夜が明けていたのだ。もっとも弥次、喜多は人目をはばかっていたので、日本橋には行けず神田から密かに出立したのだ。

■鈴が森刑場

品川神社から新馬場駅を越えて、旧東海道を少し歩いてみよう。目黒川にかかる橋の側に荏原神社があるので参拝し、青物横丁で品川寺に参詣し、鮫洲、立会川を通ります。

2.5キロで鈴が森刑場（品川御仕置場）跡、江戸の北には小塚原刑場があり、南は浜川町の南の一本松と呼ばれるところに設置された。「鈴が森」という名は不入斗（いりやまず）村の鈴森八幡（現岩井神社）に由来するという。明治4年に廃止されるまで、数万人が処刑された。由井正雪の乱の丸橋忠弥、「お若えの、お待ちなせえ」「待てとおとどめなされしは・・・」

の白井権八、八百屋お七、盗賊日本左衛門らが処刑された。



■穴守稲荷 大鳥居（大田区羽田空港 1-1）

羽田空港が昭和 6 年（1931）8 月に日本初の国営民間航空港として開港した当時、穴守稲荷神社もこの地にあった。敗戦により空港は米軍に接收され、軍用飛行場建設のためにこの地の 1200 世帯・3000 人を強制退去させた。穴守稲荷は海老取川対岸に移ったが大鳥居だけは残された。



恐れ多くも、鳥居を動かそうとすると祟りがあるとされたからだ。最初は終戦直後の 1945 年 9 月、鳥居を取り壊そうとした作業員が次々にけがをしたため工事は中止。さらにこの仕事を請け負っていた業者が倒産してしまった。2 度目は 1982 年。空港拡張計画が具体化し、鳥居の撤去も決定。その直後の同年 2 月、日航機が着陸直前、逆噴射によって墜落。24 人が死亡する大惨事が発生した。またも計画は中止されたが、1999 年 800m 離れた現在地に移された。今回は地元の下承を受けていたため、祟りは起きなかったようだ。

羽田神社に行くには京浜急行「大鳥居駅」で降りるが、肝心の鳥居がどこにも見つからなかった。調べてみると羽田空港内にあるようだ。今回まず鳥居を見つけない。天空橋駅のそばにあるらしい。羽田神社の夏の大祭は、この鳥居の下で開催される。

■羽田神社（大田区本羽田3-9-12）

祭神 須佐之男命 稲田姫命

隣にある自性院境内に牛頭天王社として祀ってあった。この社は徳川家、島津家、藤堂家などに厚く信仰された。明治元年(1868)の神仏分離令により牛頭天王社は八雲神社として独立し、明治40年に羽田神社と改称された。

牛頭天王は品川神社の時に述べたように、須佐之男命（スサノオノミコト）として日本に現れたものだから、神社になってからはこの名前で祭られている。境内には三つの稲荷が並んでいる。手前から「鈴納稲荷」「増田稲荷」「羽田稲荷」で、それぞれ赤い鳥居が並んでいる。

羽田航空神社があるが、これは空港内にある航空関係者の神社で、こちらとは関連はない。



■羽田富士（大田区本羽田 3-9-12）

神社の拝殿の左手、回廊の裏手に羽田富士がある。これは高さが4mほどだが、熔岩で造られた本格的なものである。木花講と書かれた石碑がいくつも立っている。石碑の石は安山岩で、富士の熔岩ではない。「幸行修行 富士登山百三十三回、中道三十三回、雪中登山十五回」と彫られたものもある。先達は厳寒の富士に15回も登っている。それはすごいことだ。途中の行程を示す合目石もいくつかある。これは花崗岩が使われている。



説明文には大田区唯一の富士塚と書いてあるが、次に行く多摩川富士も大田区にある。これはどういうことなのか、それに大田区には富士塚の遺構はいくつもあるので、説明文はあまり信用できない。

■大師橋・多摩川

羽田神社の先が多摩川、そこにかかるのが大師橋である。大師は川崎大師のことで、ここに詣でる人々が渡った橋である。もともとは羽田の渡しがあった場所である。

この辺りでは多摩川と言わず、六郷川ということもある。鎌倉時代、この辺りは荏原郡にとよばれ永富・大森・蒲田・堤方・原・八幡塚の6つの郷によって構成されていた。そのことからこの辺りを六郷とよび、川の名前も六郷川といわれた。上流の六郷橋のたもとに六郷神社がある。

■蒲田

蒲田行進曲の松竹撮影所があった場所は、高砂香料の工場になり、さらに再開発でアロマスクエアという施設になっている。松竹撮影所は大船に移ったが、そこも現在は鎌倉女子大学になっている。

京浜急行蒲田駅とJR蒲田駅、等級蒲田駅はかなり離れている。蒲蒲線の計画もあるが、東急と京急の線路の幅が違う等、問題もあってなかなか実現しない。

多摩川富士、多摩川浅間神社は全体がお富士さんだ！

■東急多摩川線・多摩川駅

東急には目蒲線というのがあった。目黒と蒲田をむすんでいたが、いまは目黒線と多摩川線に別れ、2000年8月6日、目蒲線という名前は消えてなくなった。目蒲線と東横線の接点にあったのが多摩川園駅だったが、肝心の多摩川園がなくなったので駅名は多摩川になった。現在多摩川駅は東急東横線、目黒線、多摩川線の3線が集まる交通の要衝であるが、東急全線の中で乗降客が最も少ない駅に



(昔の目蒲線)

なっている。乗り換え者は多いが、地元
に会社や学校がないので改札口を通る人があまりいないということだろう。

■国分寺崖線

駅のすぐ脇に高台がある。この上の武蔵野の台地で、多摩川沿いの崖は国分寺のハケの道に続く国分寺崖線（がいせん）である。国分寺の辺りでは20m以上の高さがあるが、この辺りでは10m程度になる。この台地の上に古墳がたくさんある。亀甲山古墳は、南武蔵を代表する多摩川流域最大の前方後円墳で、全長 107mもある大きなものだ。4 世紀後半の築造と推定されている。堺市の大仙古墳（仁徳天皇陵？）が5世紀であるから、武蔵の国にも大きな古墳を作れるほどの豪族がいたのだ。

■浅間神社の社殿は古墳の上（大田区田園調布 1-55-12）

品川富士は大きかったが、羽田富士は4 mほどの高さだった。都内にある富士塚は羽田富士程度の大きさがふつうだ。しかしここ多摩川浅間神社は古墳の上に造られているので、とても大きく塚とはいえない。登り口には富士の熔岩が積み上げられており、富士講の石碑もある。富士講中興の祖・食行霊神（身禄）の石碑は、勝海舟の直筆である。

現在の社殿は昭和 48 年（1973）に完成した
優美な浅間造り様式で、都内では唯一のもので
す



- 浅間神社の高台から見る多摩川の風景
はすばらしいものです。下流の橋は丸子橋。
このちょっと下流に 2002 年アゴヒゲアザ
ラシの「タマちゃん」が泳いでいるのが見
られた場所だ。
- 富士山も見えるはずなのだが、数回訪れ
ただけの私はまだ実際に見ていない。
今回も天気予報ではダメそうだ。
- 多摩川浅間神社

創建は鎌倉時代 戦乱をくぐり抜けて八百年

当浅間神社は今から八百年前、鎌倉時代の文治年間（285-90）の創建と伝えられます。右
大将源頼朝が豊島郡滝野川に出陣したおりに、夫の身を案じ、後を追ってきた妻政子は、
わらじの傷が痛み出し、やむなくここで傷の治療をすることになりました。 逗留のつ
れづれに亀甲山に登ってみると、富士山が鮮やかに見えました。富士吉田には、守り本
尊の「浅間神社」があります。政子は、その浅間神社に手を合わせ、夫の武運長久を祈り、
身につけていた「正観世音像」をこの丘に建てました。村人たちはこの像を「富士浅間大菩薩」と
呼び、永く尊崇しました。これが「多摩川浅間神社」のおこりです。

承応元年（1652）五月、浅間神社表坂の土どめ工事をしていたとき、九合目辺りか
ら唐銅製の正観世音の立像が発掘されました。多摩川で泥を洗い落としてみると片足し

■次回 ■ 1月6日（日）

新宿区のお富士さん西武新宿線・下落合駅 10:00 集合
月見岡八幡・成子富士・鬼王富士・花園富士・西向天神・抜け弁天大
江戸線若松河田駅 解散

■次次回 ■ 2月2日（土）板橋区のお富士さん東武東上線・東武練馬駅

10:00 集合 北町富士、下練馬富士、東京大仏、上赤塚富士、下赤塚富士、徳丸富士・
東武練馬駅 解散

新宿周辺のお富士さん……都心にも残る富士山

足立区、江戸川区にはたくさんの富士塚が残っている。江戸の田舎の庶民の信仰心の現れで、商人や武士の多かった山の手には、富士塚は少なかったのではないかと思っていた。実際、千代田、港、目黒、渋谷、中野、杉並、世田谷などの区にはほとんど残っていない。

しかし新宿界限には、いくつか集中して富士塚が残っている。新宿あたりは特別なのか、あるいは昔ほど田舎だったのか、いずれにしても庶民文化が強いのこっていた場所なのだろう。

- 西落合富士……八幡様にある富士塚、幼稚園の敷地なので外から見るだけ
- ◆神田川の碑……あなたはもう忘れたかしら……
- 成子富士……天神さんにある。山頂に木花咲耶姫の像。正月のみ入場可。
- 鬼王富士……鬼王稲荷神社。破壊されたが、熔岩は残っている。
- 花園富士……花園神社境内。芸能人が参拝。藤圭子の歌碑あり
- 西向富士……西向き天神にある富士塚。斜面に造られ立派。
- ◆千駄ヶ谷富士……鳩森八幡にある大きな富士塚。いつでも登れる。



大人のための科学塾『みわ塾』

HP: <http://kazmiwa.sakura.ne.jp>

■下落合 八幡通り

西武新宿線、高田馬場の次の駅が下落合。落合というのは神田川と妙正寺川が落ち合ったところだ。昔は洪水が頻繁に起こったので、今は神田川と妙正寺川は分離されているが、最近は落合の水処理場の水を妙正寺川に流しているの、やはり落合である。妙正寺川は新目白通りの下を流れ、明治通りの高戸橋で合流している。

下落合の駅前を流れているのが妙正寺川で、それに直交するの道路が八幡通である。この通りを小滝橋（おたきばし）の方へ進むと左手に大きな施設が出てくる。これは落合の下水処理場（現在の名称は水再生センター）である。昭和39年オリンピックの年に造られた巨大な処理場で、処理された水は渋谷川、目黒川、呑川まで地下トンネルで運ばれて都会の川の浄化に貢献している。そんなに遠くまで運ばれているとは思っても見なかった。

■月見岡八幡神社（新宿区上落合 1-26-19）

処理場前に八幡公園がある。そこに昔の月見岡八幡神社があったが、現在は公園のさらに上の方に移転している。いつ移転したのかは不明なので聞いてみよう。もの本には下水処理場ができたときと書いてあるが、それは昭和39年だから、ちょっとおかしい。もっと前に移転しているのだから。

社伝に「源義家奥州征討以前の社にして、義家当社に参詣して戦捷の祈願あり。当時其手植せる松樹一身幹、徳川氏の代いつの頃か枯死し、根幹のみ年久しく社殿背後に残存せし由也」とある。昭和二十年の空襲により灰燼に帰したが、昭和二十三年本殿を二十九年社務所を再建した。」とある。

源義家は八幡太郎義家、京都の石清水八幡宮で元服したのでその名がある。その義家由来の神社なのだから八幡様になったのだ。

祭神は

応神天皇（ほんだわけのみこと）

神功皇后（おきながたらしひめ）

仁徳天皇（おおささぎのみこと）

普通八幡神社には仁徳天皇は祭られていないのだが、ここでは入れてある。応神は15代、仁徳は16代天皇である。神功皇后は応神天皇の母。八幡神社の総本宮は宇佐八幡。鎌倉の鶴岡八幡、京都の石清水八幡はその分社である。



この神社は幼稚園を併設しているので、鳥居の前に門が作られているので、勝手にはいることはできない。一声かけて、怪しい者ではないとお願いして入れてもらおう。

■落合富士

上落合富士と書いてある本もあるがまあ落合富士でいいのではないだろうか。現在はその痕跡はほとんど残っていないが、江戸時代まではこの辺りにはたくさん古墳があったという。月見岡八幡の境内にあった富士塚も古墳の上に築かれていたという。

現在は本殿の裏側に富士塚も移築されている。熔岩をはり付けた塚で、高さは 2.5mほど。お願いすれば登ることも可能である。



いい写真がないので、とりあえず頂上の祠の写真を入れておきますが、この祠に何と書いてあったか、浅間神社とか、覚えていないので今回ちゃんと確かめてみたいと思っています。

■小滝橋、神田川

八幡神社をでて小滝橋に向かいます。おたきばしと読み、都バスの車庫があるので地元の人にはなじみ深い名前である。小滝橋の由来は「いなげや」の脇の石碑に書かれている。何だったか確かめてみたい。

ここから神田川を遡ってみよう。この川の水源は井の頭公園の泉で、杉並、中野、新宿区を通り、江戸川橋から飯田橋の外堀に流れ、水道橋、お茶の水、秋葉原、両国橋で隅田川に注いでいる。神田川の遊歩道を上流に行くと中央線のガードをくぐる。さらに進むと大久保通りに架かる末広橋があるが、そのたもとに「神田川」の歌碑がある。この辺りに「横丁の風呂屋」があったのだろうか？ちょっと違うみたいなのが、・・・

■蜀江坂

柏木小学校から柏木地域センターをとおり、ちょっと大きな通りに入る。この坂道は「蜀江坂」という。なぜこんな名前なのか、説明版があるので調べてください。

成子富士、成子天神社にある富士・頂上には木花咲耶姫の像がある。

■成子天神社（新宿区西新宿 8-14-10）

蜀江坂を下って大きな通りに入る。これが青梅街道である。この道を新宿大ガード方面に登っていくと左手に鳥居が見える。奥の方にもう一つ鳥居があり、その奥に成子天神社がある。

天神さんは菅原道真を祭る神社で、九州の太宰府天満宮が総本宮で、東京の湯島天満宮もここから勧請された宮である。天神さんは学問の神様で、受験生の参拝が絶えない。

◆天神さんといえば牛、来年は丑年なので大いに賑わうだろう。後樂園の近くに牛天神という社があるように、天神さんと牛は切っても切り離せない。

なぜ牛なのかは諸説がある。

1. 道真の生まれた年が丑年
2. 道真が亡くなったのが丑月の丑日
3. 道真は牛に乗り大宰府へ下った
4. 牛が刺客から道真を守った

◆天神さんと梅

菅原道真が太宰府左遷の時に詠んだ歌。

「東風(こち)吹かば 匂い起こせよ 梅
の花 主なしとて 春な忘れそ」

その梅が道真を慕って、一晩のうちに太宰府に飛んでいったという「飛梅伝説」

がある。この伝説から天神さんには梅の木がある。例えば、湯島天神は湯島の白梅。成子天神には牛や梅があるのだろうか？



■成子富士

新宿区登録史跡 平成二年六月一日登録

大正九年（1920）成子天神社境内にあった天神山を改造して、区内で最後に築造された富士塚である。熔岩で築き、山つつじを植えており、高さは約 12 メートルと比較的大規模なものである。富士塚は、江戸時代中期より、江戸の商人・職人・農民の間に盛んになった富士信仰の遺跡である。同業者を中心に富士講が組織され、社寺の境内に小富士を築いて崇拝し、管理運営を行った。成子天神社の富士塚は、柏木・角筈地域の人々で組織した丸藤講が運営にあっていた。なお、塚の斜面をめぐる七福神像は、昭和五十八年（1983）に新造されたものである。

平成三年一月

東京都新宿区教育委員会

都内でも有数の大きさを持つ富士塚であるが、囲いがしてありふだんは拝観することもできない。1月の6日までだけ麓にある七福神巡りができるように、門を開けてくれるので、我々も富士塚を拝むことができる。上の説明にあるような12mはちょっと誇大広告で、実際には8m程度ではないかと思っている。

登山道は表裏があり、小御獄神社も人穴もあり典型的な富士塚である。しかし富士塚の頂上には木花咲耶姫の大きな像が造られている。さらに斜面には七福神が奉られているが、これらは本来の富士塚とは何の関係もない。こんなことをしたので重要有形文化財にはならなかったのだろうと私は思っているのだが……！

富士講の石碑はどんなものがあるか調べてみよう。

■稲荷鬼王神社（新宿区歌舞伎町 2-17-5）

いまや韓国人町になった感のある旧職安通り、その歌舞伎町側に稲荷鬼王神社がある。社伝には次のように書かれている。

もともと大久保村の聖地であったこの地に氏神として稲荷社が建てられた。その後大久保の百姓・田中清右衛門が紀州熊野から鬼王権現（月夜見命・大物主命・天手力男命）を勧請し、稲荷神社と合祀して稲荷鬼王神社となったという。

厄除福寿の鬼王の名を持つ全国唯一の宮として、江戸時代には地元民、江戸からの武士や商人、職人と多くの人が参拝した。また新宿山の手七福神詣での恵比寿様であるため、恵比寿様とも呼ばれる。湿疹・腫物などが出た人は、鬼の好物である豆腐を献納し、治るまで豆腐を断ち、当社の「撫で守り」で患部撫でると治癒するといわれた。

鬼は神であり、力の象徴であるといわれた。全ての災禍を祓う力があるということから当社の豆まきは「鬼は内、福はうち」と唱えて豆をまくという。鬼王というのは平将門の幼少の頃の名前であるが、祭神には将門の名は見えない。

祭神は

稲荷社の 宇賀能御魂命（うがのみたまのみこと）

鬼王社の 鬼王権現（きおうごんげん）[月夜見命（つきよみのみこと） 大物主命（おおものぬしのみこと）天手力男命（あめのたじからおのみこと）]

と二種類の神様を祭っている。

■西大久保富士（浅間神社 御祭神名 木花咲耶姫命）

昔は西大久保の厄除け富士といわれた。古よりここにあった浅間神社は、明治 27 年、稲荷鬼王神社に合祀され、昭和 5 年 西大久保の厄除け富士として復興され、霊峰不二の石をはじめ全国からの銘石をとりよせ建立された。そのつくりは、平坦な場所にとりよせた石を積み上げて造りあげたため、特色のある富士山だった。しかし戦争中の空襲により、石の基盤がゆるみ崩れた。その石を二カ所に寄せ集めた。今は一合目から四合目と五合目から頂上までと二つにわかれた形になっている。こんな形で復元した富士塚はここだけである。珍しいというか、ズボラというか……



しかし登山道、頂上の祠、小御獄神社、人穴など富士塚の要素をきちんと残している。もとの富士さんは立派なものだったことが推測される。富士講の石碑もいくつか残っている。どんな講だったか、調べてください。

花園富士、花園神社にある芸能人の参拝がやまないお富士さん

■花園神社（新宿区新宿 5-17-3）

新宿区役所の裏手のゴールデン街のさらに裏手にある。というのが表参道は明治通側にある。花園神社とはなんとも色っぽい名前だが、もともとは稲荷神社で、花園稲荷神社とよばれ、新宿の総鎮守であった。稲荷神社なので祭神は倉稲魂神（うがのみたまのかみ）である。しかしこの酉の市は大変有名である、ということはこの神社は大鳥神社でもあるということだ。祭神は日本武尊（やまとたけるのみこと）である。

創建年代は不詳。徳川家康が来る前からあったといわれる。戦争で社殿は焼かれたが何回も立て直され、昭和40年はコンクリート製の社殿になった。その時に境内にあった大鳥神社が格上げになり、稲荷神社と同一殿に合祀され、花園神社と称されるようになった。花園神社という名前はけっこう新しい名前なのだ。

ちなみに境内にある威徳稲荷神社は赤い鳥居が並んでいるが、その奥にはなかなかおもしろいものが祭られているので、ぜひご覧を！

■花園富士

明治通側の鳥居をくぐり、右手の狭いところに芸能浅間神社がある。お富士さんは高さ1mほど、頂上には浅間様の祠がある。

石垣は芸能人の奉納でできているようで、多くの芸能人の名前が赤い字で書かれている。浅間神社の前に芸能と書かれているのは愛嬌なのか、本心なのか。もともとは富士山の神様、木花咲耶姫を祭る神社なのだ。木花咲耶姫は超美人だが嫉妬深いので、女性が富士さんに近づくことを喜ばなかった。

しかし江戸に作られたミニ富士山は女、子供も登ることができた。ここなら女優さんも女性歌手も詣ることができたのだ。その中でも新宿の女である藤圭子が代表であるようで、「夢は夜ひらく」の歌碑が正面に立てられている。ちなみに「新宿の女」の歌碑は次に行く「西向天神」にある。

写真の最初に名前がある唐十郎は1967年花園神社の境内に紅テントを建て、『腰巻お仙』を上演した。アングラ演劇の旗手であったが「腰巻き」はけしからんと排除された。しかし威徳稲荷神社の飾られているモノはもっとけしからんのに、何で問題にならないのだろうか。



東大久保富士、西向天神社ある お富士さん

■西向き天神（新宿区新宿 6-21-1）

新宿区役所からゴールデン街をとおる遊歩道がある。これは昔の都電の線路跡で、たどっていくと新宿文化センター前を通り、抜け弁天に出る。文化センター脇から天神小学校の横をとおると目の前に見上げるように西向天神社がある。

ここは東大久保村の鎮守。太宰府の天満宮の方へ向かい社殿を西向きに造っているために昔から呼び慣らわされた。祭神はもちろん菅原大神だが、稲荷大神、秋葉大神、巖島大神も祭っている。

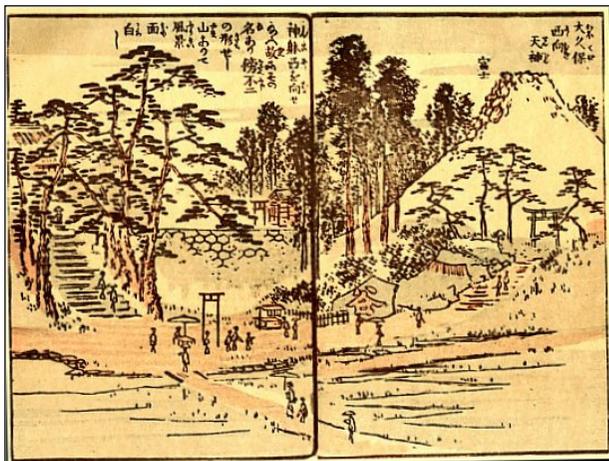
■東大久保富士

西向天神社の境内、西南の一隅の崖の斜面に築かれている。高さは2mほどで、溶岩を積み上げ、固められている。頂上には「日之尊」と刻んだ根府川石の碑が立てられている。日之尊とはだれのことなのか？

頂上への登山道は石の階段になっている。右側には弘化2年（1845）に西大久保丸谷講の石碑がある。大正14年（1925）再築の記念碑がある。

天神社の境内からみると小さな富士塚のようなのだが、天神社自体が高台にあるので、下から見上げるとかなり大きい（10mほどか）ことがわかる。もとは駐車場の場所から広がっていたようだ。公園に到る石段を登ると富士塚の背後が見える。石碑も多くある。どの講が立てたものか調べてください。

正面階段の右側に「浅間神社」と刻んだ石の標柱（大正15年6月造立）と「富士山一合目」と刻んだ石の標柱があり、この奥に斜面を利用してボク石で洞窟（胎内）があるそうだ。私は見ていないので、調べてください。



千駄ヶ谷富士、渋谷区唯一、大きく立派なお富士さん

■鳩森八幡宮（渋谷区千駄ヶ谷 1-1-24）

当社の鎮座は、神亀又は貞観年間と伝えられ、千駄ヶ谷一帯の総鎮守として村民の崇敬が篤かった。江戸名所図会によれば「この地に瑞雲現じ 白気降り 白鳩多数西をさして

飛び去れり その靈瑞を称し鳩の森という」とある。平成五年社殿落成。

八幡様だから当然 応神天皇と神功皇后を祀る。神楽や能を奉納する神楽殿は能楽堂のようである。実はすぐ近くに国立能楽堂があるのだが、関係があるのか？

近くに将棋会館があるが、それにちなんで将棋堂という六角堂がある。内部は天童市から送られた巨大な駒が奉納されている。



■千駄ヶ谷富士

八幡宮も立派なのだが、私にとって一番の見所は富士塚だ。下谷坂本、長崎、江古田の三つは国指定の文化財だが、こちらの方がはるかに立派だと思うのだが……。こちらは東京都指定の民俗文化財である。他の文化財の富士塚は囲いがしてあり登ることはほとんどできないが、こちらは庶民的でいつでも登ることができる。それが私たちにはうれしいのだが、権威はないのかもしれない。

千駄ヶ谷の富士塚（東京都指定有形民俗文化財）

この富士塚は寛政元年（1789）の築造といわれ、円墳形に土を盛り上げ、黒ボク（富士山の熔岩）は頂上近くのみ配置されている。山腹には要所要所に丸石を配置し手織、土の露出している部分には熊笹が植えられている。頂上には奥宮を安置し、山裾の向かって左側に木造の里宮の建物がある。

頂上に至る登山道は正面に「く」の字形に設けられ、自然石を用いて階段としている。七合目には洞窟つくられ、その中には身祿像が安置されている。塚の前面には池があるが、この池は塚築造のため土を採掘した跡を利用したもので、円墳状の盛り土、前方の池という形は江戸築造の富士塚の基本様式を示している。

この富士塚は大正十二年（1923）の関東大震災後に修復されているが、築造当時の旧態をよく留めており、東京都内に現存するものではもっとも古く、江戸中期以降、江戸市中を中心に広く庶民の間で信仰されていた富士信仰の在り方を理解する上で貴重な資料である。昭和五十七年三月三十一日 建設 東京都教育委員会

■次回 ■2月9日（土） 板橋区のお富士さん

東武東上線・東武練馬駅 10:00 集合

北町富士、下練馬富士、東京大仏、上赤塚富士、下赤塚富士、徳丸富士・

東武練馬駅 解散

■次次会 ■3月6日（木） 富士吉田の富士北口浅間神社、甲斐一宮の浅間（あさ

ま) 神社参詣。

■ 4月からは月一回不定期に榎町地域センターで「みわ塾」を開催します。

みわ塾 2008年 東京の富士さん巡り 第10回

練馬、板橋のお富士さん……川越街道沿いの富士塚

板橋区、練馬区にも富士塚が残っている。板橋は中山道の宿場だが、そちらにはあまり残っておらず、川越藩のみが参勤交代に使っていた川越街道沿いの小さな宿場に残っているのはなぜだろうか。

今は板橋区、練馬区となっているが、練馬区は昭和22年8月に23番目の区として板橋から独立した。それまでは練馬大根で有名な畑作の農村部だった。今は都市化が進んでいるが、まだ農村の面影を残しており、富士塚が似合う感じがする地域である。歩いての富士塚めぐりは楽しい。

- 下練馬富士……旧川越街道沿いの富士嶽神社にある。
- ◆ 旧川越街道……石観音（吹上観音への分岐）。「どら焼き」老舗
- 大松富士……北町富士、本殿が焼失。大松氷川神社鳥居脇。
- ◆ 松月院、東京大仏……高島秋帆・砲術訓練。日本三大仏。
- 下赤塚富士……諏訪神社の附属地の浅間神社。大きいが熔岩は少ない。
- 上赤塚富士……氷川神社赤い鳥居の脇にある。富士講石碑多い。
- ◆ 乳房榎（三遊亭円朝の怪談噺）、くつが鳴る（清水かつら作詞）
- 白子富士……白子宿の熊野神社境内。別に熔岩で造った胎内くぐり。



大人のための科学塾『みわ塾』

HP: <http://kazmiwa.sakura.ne.jp>

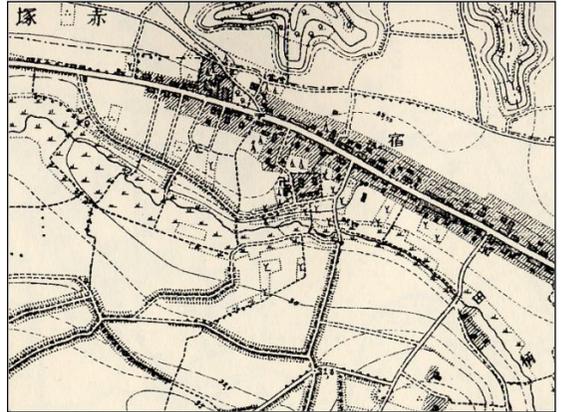
下練馬富士 川越街道沿いのお富士さん

■川越街道 下練馬宿

我が家の近くの板橋宿平尾で中山道と川越道中（大山道）が分かれる。中山道は板橋宿だが川越街道は上板橋宿という。上板橋宿の次は下練馬宿へつながり、白子川をわたって埼玉県の白子宿に向かっている。中山道の宿場とは違って、参勤交代は川越藩だけなので宿場としては規模は小さかった。

東武東上線と川越街道はほぼ平行して川越に向かっており、本日の始発点、東武練馬駅は昔の下練馬宿にある。駅を出て旧川越街道をすこし上板橋にもどると聖観音の石造がある。なんとなく昔の道ばたのお地藏さんみたいである。この分岐から今来た道の方に行くと吹上観音への参詣道になる。昔は荒川を渡って参詣する人も多かったが、今は少ない。

右上の地図は明治の地形図。追分けの場所がわかる。東武練馬駅はどのあたりかわかりますか。下は旧川越街道の説明文。



この道は、戦国時代の太田道灌が川越城と江戸城を築いたころ、二つの城を結ぶ重要な役割を果たす道でした。江戸時代には中山道板橋宿平尾の追分けで分かれる脇往還として栄えました。日本橋から川越城下まで「栗（九里）より（四里）うまい十三里」とうたわれ、川越藩の宣伝にも一役かいました。

下練馬宿は「川越道中ノ馬次ニシテ、上板橋村へ二十六丁、下白子村へ一里十丁、道幅五間、南へ折ルレバ相州大山へノ往来ナリ」とあります。川越寄りを上宿、江戸寄りを下宿、真ん中を中宿とよびました。上宿の石観音のところで徳丸から吹上観音への道が分かれています。

通行の大名は川越藩主のみで、とまることはありませんが、本陣と脇本陣、馬継の間屋場などがありました。旅の商人や富士大山詣で、秩父巡礼のための木賃宿もありました。浅間神社の富士山、大山不動尊の道標、石観音の石造物に昔の街道の面影を偲ぶことができます。

平成六年三月 練馬区教育委員会

■富士嶽神社（練馬区北町 2-41-2）

旧川越街道側の鳥居には富士嶽神社と看板がかかっているし、地図にもそう書いてあるのだが、中の鳥居脇の看板には浅間神社、祭神は木之花開耶姫命と書いてある。富士嶽神社と浅間神社は同じものと思われているようだ。しかし確かめていないので、今回何か確かめてみましょう。

■下練馬富士（練馬区北町 2-41-2）

鳥居をくぐると小さな広場になっている。ここでは7月1日の山開きには屋台店が出て賑わう。広場の奥、本殿の左手のコンクリート階段上に熔岩積みの富士山がある。途中には合目の石もあり、富士講の石碑も多い。ここは下練馬上宿、中宿の「丸吉講」の人たちが造った。



石碑を見ると明治前、1872年再築、1927年（修築。関東大震災で崩れたため）、1951年改築されたようだ。昭和二年六月

一日上宿中とある石碑、「(吉) 同行三建記念碑」の裏側には「氏子総出場人員六百人、諸職人壱百五拾人」とある。この講の人数はかなり多かったようだ。

富士講はすでにないが、氏子の方々が手入れをしているので、きれいな富士塚に保たれている。

大松富士、練馬区北町には二つの富士山がある

■いま坂

川越街道を下練馬から赤塚方面に来るにはダラダラした坂を上る。いまはほとんど気が付かないが、バイパス道のあたりはかなりの谷なのだ。先ほどの下練馬富士の北側も大きな谷で、昔は線路越しに遠くまで眺めることができたはずだ。

今はビルに囲まれているが、富士塚はたいてい谷から眺めたら、そそり立っているような場所に造られている。次ぎにいく氷川神社もちょっとした高台に有ることに注目して頂きたい。

ちょっと歩いたので、ちょっと一休み。現代風、茶店のつもりで。神馬屋（じんめ）でどら焼きでも食べましょうか。



■大松富士（練馬区北町 8-22-1 ）



どら焼きを食べて、川越街道に出て歩道橋を越え、南に 100mほど下がると、氷川神社に出る。今ここには社殿がない。2006年の11月13日に火事で焼けてしまい、神様はまだ仮住まいになっている。氷川神社なので祭神はスサノオノミコトである。この神社は地元の名前をとって大松（おおまつ）の氷川さまといわれている。その境内にある富士塚なので大松富士と呼ぶのがいいと、私は思うのだが、近隣の人に聞いても「お富士山だよ！」というだけ。地元の人はその方がいいのだろうが、他地区の人にわかるようにした方がいいのだが。ある本には北町富士と表記されているが、私は「大松富士としましょうよ」と提案したい。



写真は石段右手の大松富士 鳥居の奥は在りし日の社殿

当社は「大松の氷川様」といわれてきました。大松とは下練馬村の小字の名です。

祭神は建速須佐之男命です。境内社に御獄神社（日本武尊）、富士神社（木之花開邪姫命）、稲荷神社（保食神）、白山神社（伊邪那美命）などがあります。

さらにこの神社の特徴として参道脇に富士塚があります。江戸時代中頃から、江戸を中心に盛行した、富士信仰の丸吉講によって築かれたものです。頂上の石宮は天保六年（1835）再建、塚中腹の御手洗石は同九年（1838）再建と刻まれていますから、それ以前の築造であることにちがひありません。ほかに明治・大正の

富士登山記念碑などがあります。ちなみに、鈴原（すずがはら）神社の碑は富士山一合目にある同神社の登拝記念に建てたものです。これらの境内社は江戸時代より練馬近在の富士講・御獄講など民間信仰の中心であったことがうかがわれます。

昭和六十一年三月 練馬区教育委員会

■松月院（赤塚 8-4-9）・鎌倉街道

東武東上線の下赤塚駅の踏切をわたり、松月院の方向に向かう。松月院は曹洞宗の寺で、板橋区内では最も由緒のはっきりしたお寺。康正 2 年（1456）赤塚城に移った千葉自胤（よりのたね）が、地元の古寺であった宝持寺へ土地を寄進して、寺名を松月院と変えさせたとされている。屋根に見える三個の月星紋は、千葉氏の紋所です。徳川家康が江戸に移り、赤塚城は廃城となったが、天正 19 年（1591）に、徳川氏も 40 石をこの寺に寄進し、以来御朱印寺として幕府の保護を受けた。

松月院が有名なのは高島秋帆の大砲演習、天保 12 年（1841）5 月に松月院を本陣として山の下徳丸ヶ原で幕府の役人や大名が見守る中、荒川に向かって実弾射撃を行い、歩騎兵の調練など西洋兵術の成果を披露し見学者を驚かせました。これが明治の新政府になって実を結んだ。ここが陸軍発祥の地、秋帆は「陸軍の父」だそうである。眼下の高島平は高島秋帆の名前をとったものである。

松月院に行く途中で鎌倉街道をわたる。中世から開けており、いざ鎌倉への道があったが、それをたどるのはなかなか難しい。所どころに鎌倉古道の道しるべがある。

下赤塚富士、諏訪神社の付属地にある富士山

■東京大仏（板橋区赤塚 5-28）

松月院の裏側は下り坂になっている。坂を下りてみあげると乗蓮寺の石段が見える。このお寺はもともと我が家の近くの板橋宿中宿にあったのだが、高速道路用地になったために、昭和48年にこの地に移転し、52年には大仏さんを造った。高さ8.2m、青銅製で32トンの重さがある。（鎌倉大仏は高さ13.35m、重さ124トン）

板橋に住んだ世界的な探検家植村直己の墓がある。植村直己は昭和16年（1941）兵庫県日高町（現在は豊岡市）の生まれで、明治大学山岳部に入部以来世界5大陸最高峰登頂、犬ぞりによる北極圏の完全走破などに成功。昭和59年（1984）年にマッキンリー冬期単独登頂後に消息を絶った。墓石には詩人草野心平の追悼の詩が刻まれている。



■諏訪神社（板橋区大門大門 11-1）

荒川を望む高台上にある徳丸北野神社と赤塚の諏訪神社では、江戸時代から奇祭「田遊び」が行われる。田遊びは五穀豊穡を願う神事で、記録は比較的多く、古川古松軒の「四神地名録」や、「武蔵野話（むさしやわ）」「江戸名所図会」などに紹介されている。今はこの2社にのみ残り、国指定の重要無形民俗文化財になっている。

2月11日が徳丸北野神社、13日が赤塚諏訪神社で、夜7時ごろから盛大に行われる。その内容は「稲魂を喚起し、稲作の擬似形態を演じることで、豊穡を願う予祝神事」（小野寺節子『板橋の田遊び』、1997）であるそうだ。

今年はぜひ見てみたいと思っている。

ところで諏訪神社は、祭神は建御名方神（たけみなかた）。この神は大国主の子供であり、出雲の国譲りの時に、武甕槌命（たけみかずち）に逆らった反逆者だが、軍神として「鹿島、香取、諏訪の神」と称されて、全国に2500社も末社ができた。関東だけにおおきくではなく、長崎オクンチも長崎諏訪神社の行事である。

■下赤塚富士（板橋区大門5 諏訪神社社地）

諏訪神社の鳥居前の歩道を渡って南に50mほど行くと、広場がある。この一角に高さは5mほどの小山がある。登り口には浅間神社の鳥居があり、頂上には祠がある。大きな塚だが、富士塚特有の熔岩ははり付けていな



い。今は樹木が覆っているが、もとは古墳だったのではないか。もともと赤塚という地名からして古墳や塚は多かったはずだ。

石碑は多く、丸吉講のものが多い。また御室浅間神社、小御岳神社の石碑もある。しかし手入れは悪く、樹木に覆われ、草もボウボウである。立派な富士塚なのだから、もう少し手入れをしたらどうだろうか。諏訪神社、板橋区教育委員会に申し入れたいものだ。

下赤塚富士というのだそうだが、近くの上赤塚富士と紛らわしい。大門富士とか、諏訪富士、大宮バイパス富士とか、もっと工夫した名前にして欲しい。

上赤塚富士、赤い鳥居のわきにある富士塚 石碑も多い。

■板橋区立美術館、郷土資料館

新大宮バイパスを越えて、再び谷間において区立美術館、郷土資料館のまわりを回っていく。上にある大きな森は赤塚城址で、北条氏側のお城だったので、江戸幕府になってからは廃城になったので、城跡といっても何も残っていない。私は昔ここで生徒と一緒に天体観測をやった場所だ。

このあたりは台地と谷が入り組んでいる。谷奥を鎌倉では谷戸というがこのあたりでは谷津という。台地と谷の境の崖面からは湧き水が出ていた。最近ほとんど出ていない。都市化によって地下の水脈が変化したのだ。今どのくらい湧き水が出ているか記録しておこう。



■氷川神社（板橋区赤塚 4-22-1 ）

郷土資料館の池の脇から急な坂を上っていくと氷川神社がある。赤い鳥居には氷川神社・御霊神社となっている。鳥居の前には長い参道があり、往時のにぎわいを感じさせる。

参道前には三遊亭円朝の怪談話「乳房榎」のケヤキの木がある。この話は松月院が舞台で、そちらにも「乳房榎」がある。

板橋区、練馬区あたりには氷川神社は多い。このあたりから氷川神社の本宮であるさいたま市の大宮に近いので、地元の神様として勧請したものだろう。

■上赤塚富士（板橋区赤塚 4-22-1）

この赤い鳥居の左手にお富士山がある。高さは 2.5mほどで、下赤塚のものよりも小さ



いが下赤塚富士と違って、熔岩などがはり付けられており、富士山らしい姿をしている。富士講の石碑も多く、丸吉講、丸瀧講などで造ったものである。

お富士山の鳥居には浅間神社の名前がある。石碑には北口本宮と書いてあるのも珍しい。富士浅間神社は静岡県側の富士宮の本宮、山梨県側の富士吉田の北口本宮があるが、関東の富士講はほとんど北口本宮に詣ってから、登山をした。

登山三十三回と書いてある碑もある。その脇にはお中道修行、内八海修行と書いてあるが、それはどんな修行をしたのだろう。お中道は富士山の中腹を巡る道で、この富士山にも造られている。八海は忍野八海のことだろう。

白子富士、川越街道沿いの熊野神社にある大きな富士さん

■白子川

氷川神社からは乳房榎脇から坂を下り上りして菅原神社の切りとおしを下り、白子川の遊歩道に出る。東上線をくぐり、白子橋をわたる。橋の欄干に「くつが鳴る」の歌碑が書かれている。地元に住んだ清水かつら（1898年～1951年）の童謡である。彼の作品は他に「叱られて」「みどりのそよ風」など多数あり、地元では童謡祭も開かれているという。

白子川にかかる川越街道の橋は東埼橋という。このあたりでは、この川が東京都と埼玉県との境になる。次の熊野神社は埼玉県であるが、成増からの方が近いので、私は東京の富士塚の仲間に入れてみる。

■和光熊野神社（和光市白子 2-15-47）

白子というのは奈良時代に渡来新羅人のために新設された武蔵国新羅郷（しんらごう）が、転訛したとされている。白子の鎮守はもともとは氷川神社であった。氷川は出雲の簸川から出た名前だから、新羅系の人の神社としては納得できる。しかし徐々に百済系の大和の勢力が大きくなると氷川社は衰微し、熊野神社の力が大きくなった。

■白子富士

熊野神社の鳥居をくぐるとすぐ右手にすばらしい富士塚が見える。高さは10mほどあり、都内の第一級のものと比較しても遜色ない。ただしこちらは富士の熔岩積みではなく、赤土盛りでツツジ山のようにになっている。傾斜は急で登りにくい、頂上からの見晴らしはよい。頂上にベンチはあるが、祠はなく、コノハナサクヤヒメが奉ってあるかどうかは不明。登山口はいくつかあり、お中道もある。ツツジ、サツキの頃は花見の人出賑わう。

富士講の石碑は登山口はいくつかあり、丸瀧講の方々がこの富士塚を作ったことが分かる。大きな塚の割には石碑は少ない。この塚は白子川につきだした台地の尾根の末端を整形して作ったものであることは、背後に回ってみるとよく分かる。



■胎内巡り、洞窟巡り

境内左手の高台にある不動院の前から洞窟にはいることができる。富士塚には「おあな」と呼ばれる洞窟が付き物なのだが、こちらは離れたところに、長い洞窟がつけられている。

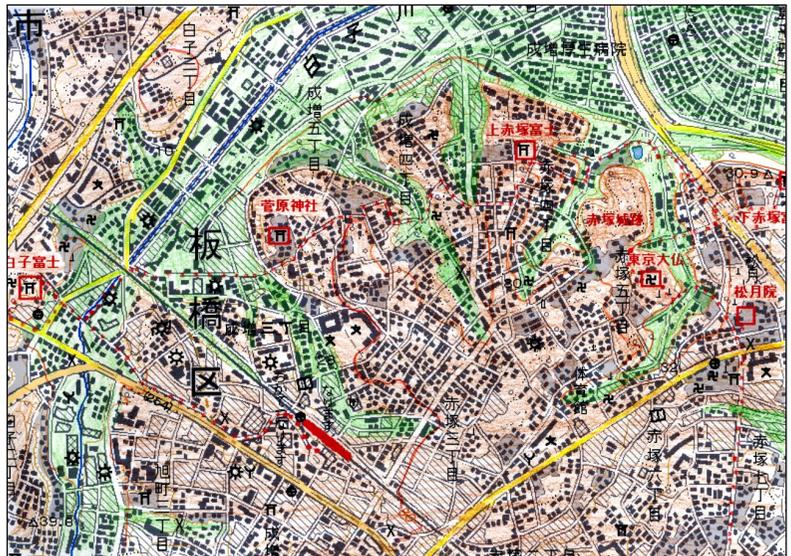
こちらはすべて富士の熔岩でできている。都内にあるお富士山は熔岩で固められているものがほとんどだが、東京近郊の大きな富士山は土盛りが多い。きっと内陸まで石を運ぶのが大変だったのだろうと想像していたら、ここでは熔岩はもっぱら胎内巡りの洞くつ造りに使われている。中に何体かの石仏があり、ロウソクが灯されており、夏でもひんやりとしている。



■白子宿 大阪

熊野神社の背後の高台は武蔵野台地であり畑が広がっていたが、今はマンションだらけ。台地と白子川の低地の境の崖には豊富な湧き水があった。昔はこの地の坂を「瀧の坂」と言ったそうだ。現在も水量は少なくなったが湧きだしている。この瀧を修行の場にしたのが神瀧山清龍寺不動院である。

富士塚には「丸瀧講」の碑がたくさんあったので、この不動の瀧から名付けたものではなかった。残念ながらこのオリジナルではなかった。



この富士山も赤塚氷川、諏訪神社の富士も台地の上に造られている。上の図は地形図に色づけをしたものだが、谷戸が入り込んでいることがよくわかる。

今は周りに高い建物があるので、景色はよくないが、往時はこれらの富士山の上からはるか彼方の本物の富士山もよく見えただろうし、荒川の向こうには筑波や日光の山々が見えたのだろう。富士さんはただの高い場所というだけでなく、富士を遙拝する場所だったのだろう。

■次回は富士さん最終回

■3月6日(木) 富士吉田の富士北口浅間神社、甲斐一宮の浅間(あさま)神社参詣。

■4月からは月一回不定期に榎町地域センターで「みわ塾」を開催します。